



第三次 丸亀市総合計画

MARUGAME CITY BRAND BOOK

目次

第1章 丸亀の未来 3

- 1 はじめに 4
 - 新しい総合計画の策定
 - 計画の位置づけ
 - 計画の構成と期間
- 2 基本構想 7
 - 丸亀市の将来像
 - まちづくりの基本方針
 - 総合計画を進めるにあたって

第2章 丸亀の現状と課題 11

- 1 社会の動き 12
- 2 将来人口推計(丸亀市人口ビジョン(令和7年改訂版より)) 13
- 3 第二次総合計画後期基本計画の検証 19
- 4 市民意見の聴取 20
- 5 課題整理と新しい計画に向けた総括 29

第3章 未来をカタチにするアクション 31

- 1 基本計画の体系図 32
- 2 総合計画と市民のつながり 34
- 3 基本方針・基本施策 42

第4章 未来を支える仕組み 79

- 1 行政改革の位置づけ 80
 - 行政運営の基本的な方針
 - 財政運営の基本的な方針
 - 広域連携の基本的な方針
- 2 地方創生SDGsの推進 85

第5章 みんなで動かすまちづくり 87

- 1 計画の進行管理 88
- 2 みんなで育てる総合計画 89

第1章 丸亀の未来



1

はじめに

新しい総合計画の策定

丸亀市では、将来を見据え、市民の皆さまとともに「未来の丸亀」を形づくるための新しい総合計画を策定しました。これまでの総合計画は、主に行政の事業展開を体系的に整理するための枠組みとして用いられてきました。

しかしながら、急速に社会環境が変化し、人口減少・少子高齢化、地域経済の変動、デジタル技術の進展、そして環境問題といった課題が複雑に絡み合う現代において、従来の延長線上の計画では十分に対応することができません。

こうした状況を踏まえ、今回の総合計画は、従来の「市役所の計画」から、市民一人ひとりが主役となってともに未来を描く「みんなの計画」へと大きく転換しました。策定過程では、アンケート調査やシンポジウム、SNSなどを通じて、世代や立場を超えた多様な市民の声をお伺いし、皆さまにとってより実感のこもった計画となっています。

また、この総合計画は単に将来像を示すだけでなく、行財政運営や広域連携といった計画を下支えする仕組みとも連動し、丸亀の未来を具体的に動かしていく役割を担っています。つまり「市民の願いを形にするビジョン」であると同時に、「市政を動かすエンジン」としての役割を持つのです。



計画の位置づけ

本計画は、市政の最上位計画として、市が目指すべき姿やその実現に向けて取り組むべき施策を体系的に示すとともに、分野ごとに策定する個別計画に方向性を与えるものです。

また、「人口ビジョン」、「未来を築く総合戦略」、「行政改革プラン」の内容を融合し、1つの計画として策定します。



未来を築く総合戦略に関連する取組には、「総合戦略」の専用のアイコンを付し、総合計画と一体的に推進していくことを示しています。また、総合戦略で設定していた数値目標を継承し、総合計画の目標値として位置づけます。

数値目標	現状値 (2024年)	目標値 (2029年)
市内事業所数	4,151所(2021年)	4,570所
市内従業者数	42,468人(2021年)	46,720人
社会増減数	+335人	+500人
観光入込客数	325.3万人	360万人
出生数	738人	700人
合計特殊出生率	1.41(2023年)	1.60
人口	107,763人	106,000人
住み続けたいと思う人の割合	80.0%(2025年)	88%

計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「重要施策」の3層により構成します。

● 基本構想

本市の特性、魅力、広域的な位置づけを整理し、長期的な展望に立ち、新たな将来像とその実現のためのまちづくりの基本方針を示します。

計画期間は、令和8(2026)年度から令和15(2033)年度までの8年間とします。

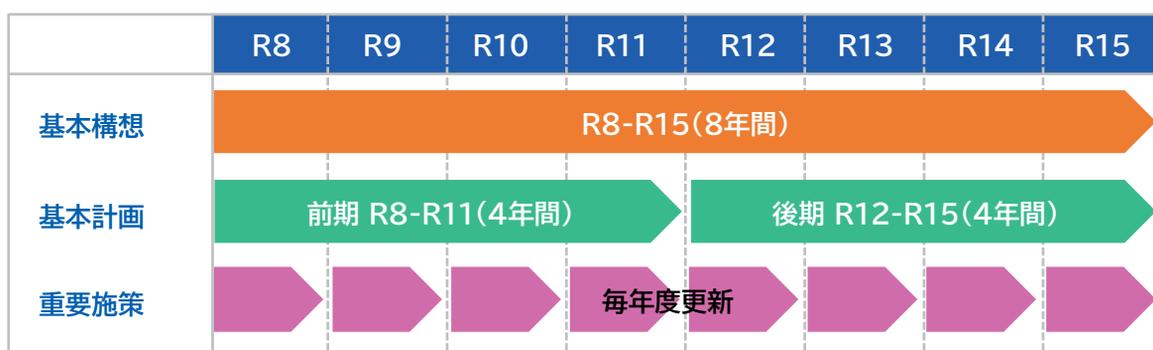
● 基本計画

基本構想で示した新たな将来像及びまちづくりの基本方針を実現するための基本施策と各分野の主要な取組を示します。

計画期間は、社会情勢等の変化に合わせて柔軟かつ的確に対応できるよう、前期4年間、後期4年間とします。

● 重要施策

基本計画を効率的かつ計画的に実施するために必要な事業を「重要施策」にまとめ、毎年度示します。



丸亀市の将来像

丸亀は、
ひとをイキイキさせるまち

社会がめまぐるしく変化、進化してゆく中で、改めて、その地域らしさとは何か？が求められています。

第三次総合計画策定にあたり、丸亀の将来像について、考え直してみました。

人口減少。
安全安心の確保。
地元企業の人手不足解消。
歴史と文化の次世代への継承。

まちづくりの根底にあるもの。それは、「人」です。

丸亀に暮らす、すべての人がイキイキした毎日を送ることが、丸亀の活気となり、次世代へ引き継ぐべき丸亀らしさにつながっていきます。

丸亀は、どの地域よりも、人を大切にするまちでありたいと思います。
丸亀は、どの地域よりも、人をイキイキさせるまちでありたいと思います。

そんな想いを込めて、丸亀の将来像を、新しく描きました。
ただ、言語化するだけではなく、丸亀に暮らす、すべての人が、心からそう思えるようにすることこそが、総合計画の役割であり、これからの8年間の道しるべです。



まちづくりの基本方針

ひとをイキイキさせるまちの実現に向けて、5つの基本方針と目指す目標を定め、分野横断的に取組を進めてまいります。

I 心豊かなこどもが育つまち

少子化対策や子育て支援を充実させ、母子保健・児童福祉を大切にしながら、安心してこどもを産み育てられる環境を整えます。また、就学前教育や学校教育、学校施設の充実を通じて、こどもたちが夢と希望を育み、心豊かに成長できるまちを目指します。



II 活力みなぎるまち

まちなか再生や賑わい創出を推進し、関係人口や移住者の増加を図りながら、活気あふれる地域づくりを進めます。また、地域産業の担い手確保や働く場の創出、商工業や農林水産業の振興を進め、地場産業の強みを生かした活力あるまちを実現します。



III 安心して暮らせるまち

良好な生活環境を確保する都市施設の整備を進めるとともに、公共交通や空家対策といった身近な暮らしの不安解消を目指します。また、防災・減災、生活安全、消防救急など、市民の生命と財産を守る仕組みを強化します。



IV 健やかな笑顔ひろがるまち

誰一人取り残さない社会に向けた重層的支援体制の強化のほか、市民一人ひとりが自分らしく生きていけるよう、男女共同参画や多文化共生の推進に取り組めます。また、スポーツや文化芸術、生涯学習の活動を通じて、心も体も健やかに育まれるまちを目指します。



V ともにつくるまち

市民参画や官民連携、地域づくりを推進し、市民と行政が共にまちを育てていく体制を整えます。また、環境問題の解決やゼロカーボンシティの実現にも積極的に取り組み、持続可能な地域社会を築いていきます。



目標 誇り愛されるまち

丸亀のパーパス(社会的存在意義)、歴史や文化、豊かな自然、そして人々の温かさを生かしたシティブランディングを推進し、その魅力を全国へ、さらには世界へと発信します。そして、市民が自分のまちに誇りを持ち、訪れる人々が心から愛し、何度でも足を運びたくなるようなまちを実現します。



5つの基本方針を柱に、
「誇り愛されるまち」を目指し、
「ひとをイキイキさせるまち」の実現へと
つなげていきます。

総合計画を進めるにあたって

丸亀に生きるすべての人たちが、より一緒に考え、動き、実現していける総合計画であるために、みんなの気持ちをひとつにする合言葉「まるっ都！まるがめ」をつくりました。みんなでこの合言葉を育ててゆくことが、まるっと！よりよい丸亀の未来につながっていきます。

都市は、容れ物ではありません。生き物です。

そこに暮らす人のイキイキとした毎日が、まちの活気になっていく。

丸亀の未来をつくっていくのがこどもたちなら、

今を生き、未来を背中で見せてくれるのは、おとなたち。

こどもからお年寄りまで、もっともっと、

人と人が響き合い、育て合う、みんながイキイキするまちへ。

「どうしよう？」を「こうしよう！」に。

「ちょっといい」を「ちょうどいい！」に。

子育て、活力、住みやすさ、支え合い、

みんなでアイデア、そして魅力発信。

すべてがまるっと！詰まった丸亀へ。

丸亀市は、あなたといっしょに、

まるっ都！計画を進めていきます。



第2章

丸亀の現状と課題



社会は今、人口減少や少子高齢化の進行、ライフスタイルや価値観の多様化、地域のつながりの希薄化、そして技術革新による変化など、大きな転換期を迎えています。こうした潮流は、私たちの暮らしや地域社会のあり方に深く影響を及ぼしており、丸亀市においても、持続可能なまちづくりを進めるためには、これらの変化を的確に捉え、柔軟に対応していくことが求められています。

1

人口減少・少子高齢化の進行

全国的に人口減少が加速し、2040年には、ほぼすべての自治体が人口減となる見通しです。特に地方都市では「生産年齢人口の減少」「高齢化率の上昇」「出生数の減少」が地域活力の低下につながっています。



2

ライフスタイルと価値観の多様化

働き方や暮らし方の選択肢が広がり、新たな地方回帰の動きが見られる一方で、依然として都市と地方の格差は顕著です。物質的な豊かさから、心の充実(Well-being)を重視する社会へと変化しています。



3

地域の希薄化と支え合いの再構築

核家族化や単身世帯の増加、地域活動の担い手不足が進行しています。防災・福祉・子育てなどの分野で、地域共助の再構築が求められています。



4

技術革新と社会変革の潮流

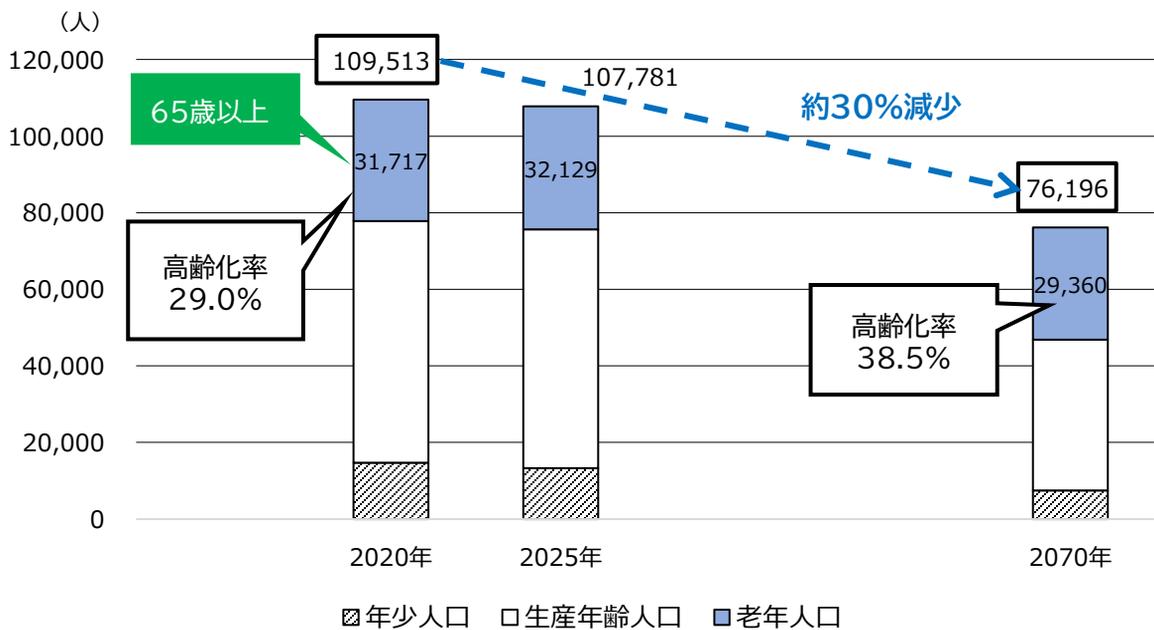
AI・データ活用によるDX(デジタルトランスフォーメーション)が進展し、公共サービスの効率化・個別最適化が進んでいます。GX(グリーントランスフォーメーション)により、脱炭素・循環型社会への移行も急務です。



丸亀市における人口の現状と将来の予測値

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の2024年6月版の人口推計によると、丸亀市の総人口は2020年の109,513人から2070年には約30%減少して76,196人となり、高齢化率(総人口に占める65歳以上の人口の割合)も2020年の29.0%から、2070年には38.5%に上昇すると予測されています。

人口減少と高齢化の進行は、消費の減速による地域経済の縮小や、社会保障費の世代間の公平性が保てなくなるばかりでなく、公共サービスの質の低下による生活環境の悪化を招く恐れがあり、まちの持続可能性に直結する課題です。



資料：2020年は国勢調査、2025年、2070年は社人研による推計値
 (※社人研の推計はコーホート要因法に基づく。以下同じ。)

丸亀市人口ビジョンの詳細



人口減少によって想定される影響を最小限に抑えるために、
本市が将来目指すべき人口を推計しています。

将来人口目標を達成すると…

- 人口ピラミッドを「高齢者が多く若者が少ない“つぼ型”」の人口構造から「各世代のバランスが取れた“つりがね型”」へと変化していく見込みです。
- 生産年齢人口100人が支える高齢者数(老年人口従属指数)も、社人研推計の74.6人に対し、独自推計では59.7人と低く抑えられる見込みです。

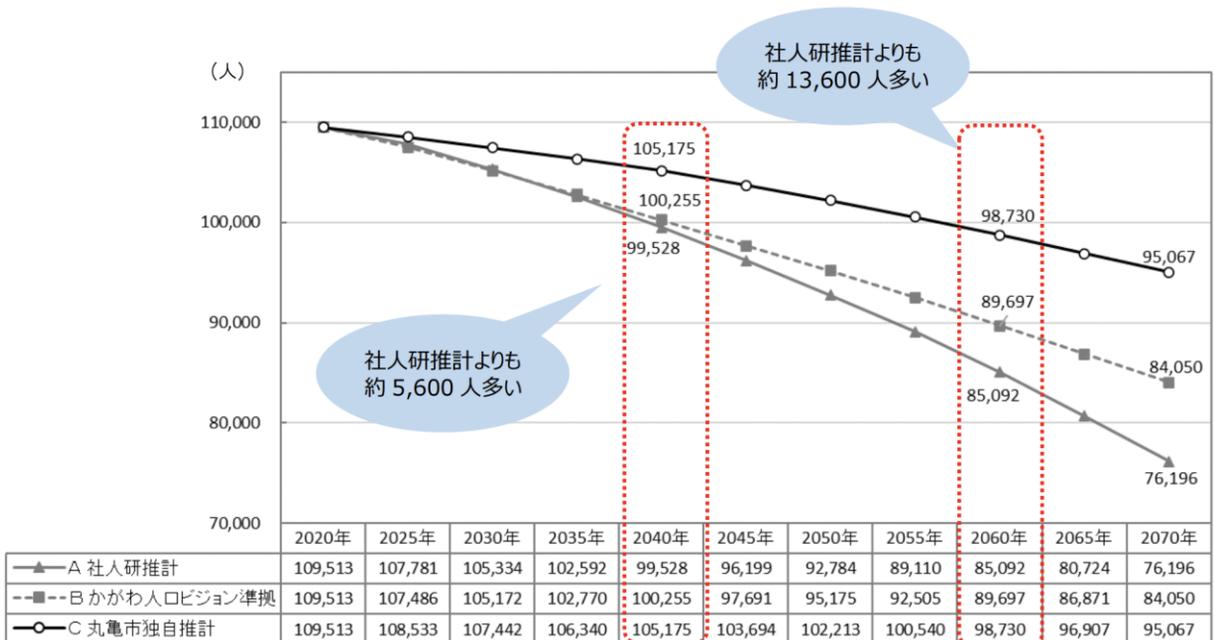
2060年 将来人口目標 98,730人

※前回 98,300人

2040年時点 105,175人

※前回 104,200人

■ 人口推計と長期的な見通しの比較



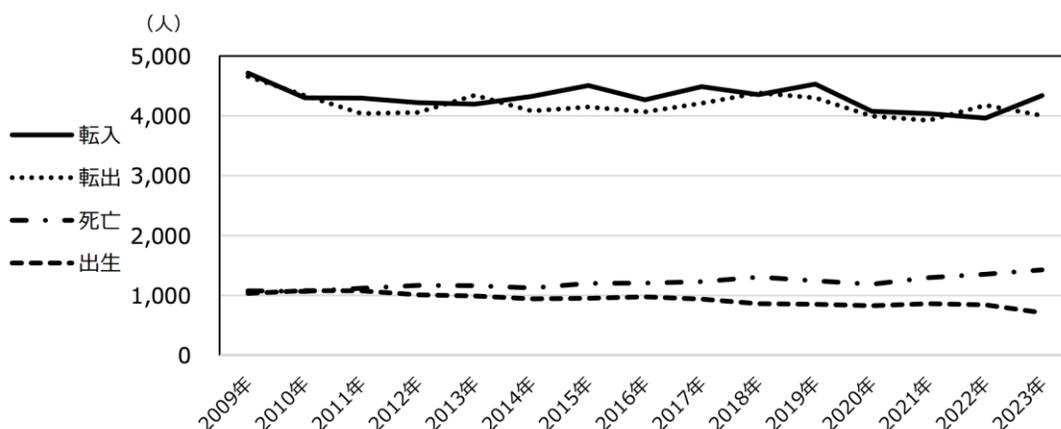
総合計画を推進していくことで、
将来人口目標の実現につなげていきます。

自然増減・社会増減

近年の人口動態は、自然減の傾向が顕著です。

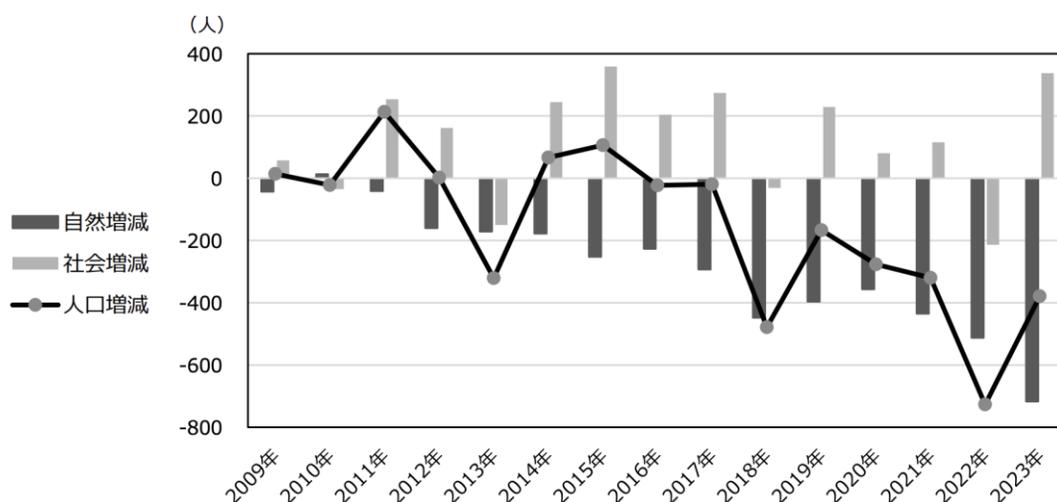
- 社会増減(転入数－転出数)については、年による変動があるものの転入数が転出数を上回っている年が多く、総体的に社会増となっています。
- 自然増減(出生数－死亡数)は、減少傾向が続いています。
- 社会増に対して自然減の影響の方が大きいため、人口増減全体では、減少傾向となっています。

■ 転入・転出、出生・死亡の推移



資料：香川県人口移動調査報告

■ 自然増減と社会増減の影響（2009年～2023年）



資料：香川県人口移動調査報告

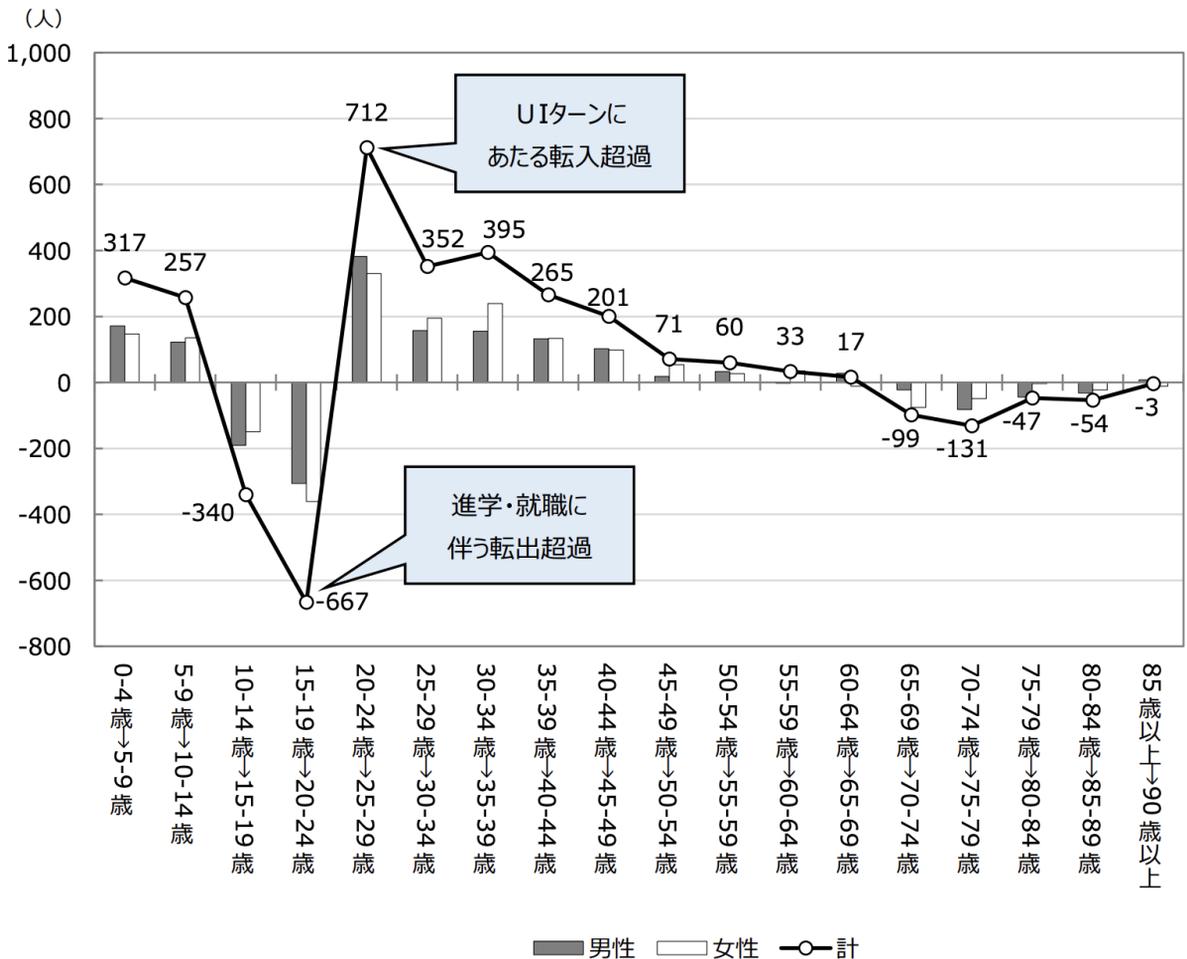
転入・転出の傾向(年齢別)

高校卒業を機に若者が市外へ流出しますが、
20代でUIターン等による転入もあります。

※純移動数の見方 例)15-19歳→20-24歳 2020年時点で20歳から24歳までの方について、5年前の住所地からの移動状況を示しています。

○ 進学や就職による転出超過の傾向が表れていますが、20歳-24歳→25歳-29歳での転入は多くなっています。

■ 2015年→2020年の男女別・年齢別純移動数



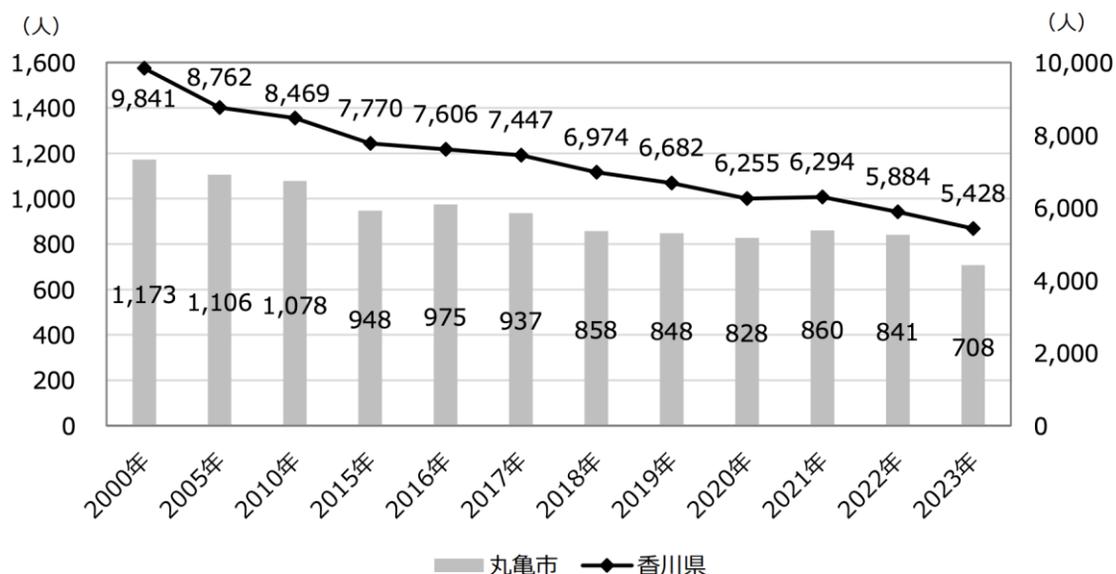
資料：国勢調査

出生

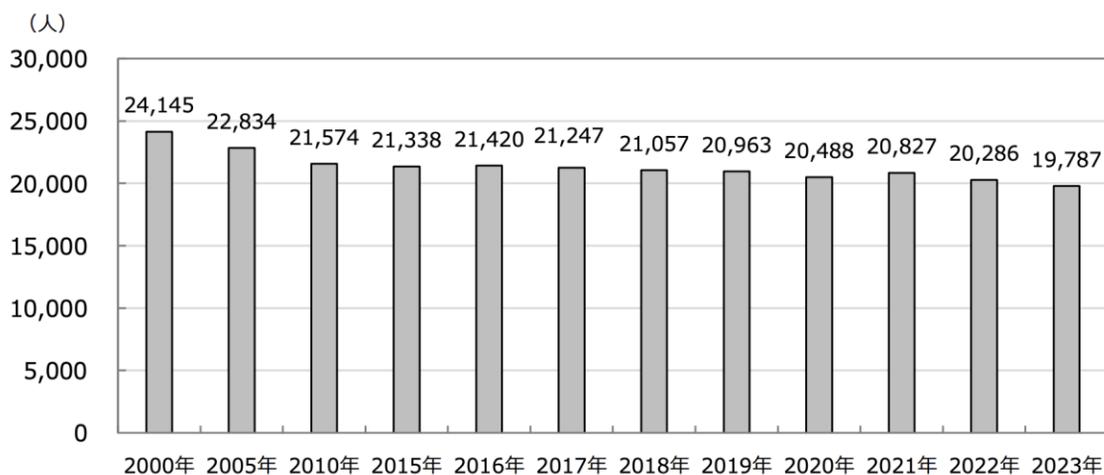
1年間に生まれるこどもの数は減少し、
2023年に800人を切っています。

- 県、市ともに、出生数は2000年をピークに、減少傾向にあります。
- 2018年には900人を、さらに2023年には800人を下回っており、2000年と比較すると400人以上減少しています。
- 女性人口(15～49歳)についても、減少傾向にあります。

■ 出生数の推移（県との比べ）



■ 女性人口（15～49歳）の推移



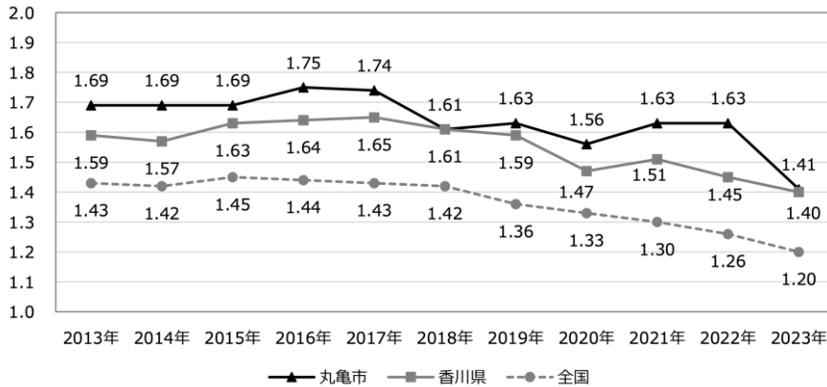
資料：国勢調査、香川県人口移動調査報告

合計特殊出生率

合計特殊出生率は、2023年に大幅に低下しています。

- 2022年までの合計特殊出生率は、概ね国や県の水準を上回り、横ばいの傾向を示していました。
- 2023年の合計特殊出生率は、大幅に低下しており、前年の1.63から0.22ポイント減少の1.41となっています。

■ 合計特殊出生率の推移



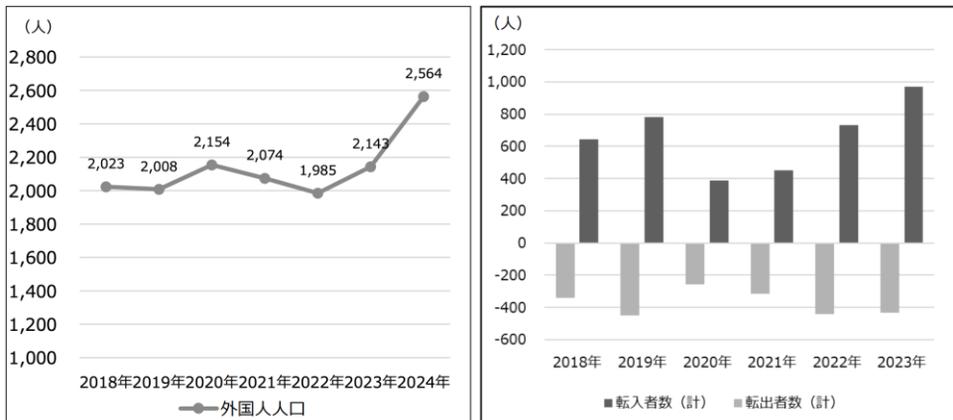
資料：人口動態保健所・市町村別統計、人口動態調査

外国人

外国人の人口は増加傾向です。

- 本市における外国人人口については、毎年転入者数が転出者数を上回り増加傾向にあります。
- 2025年には3,000人を超え、市民全体の約3%となっています。

■ 外国人の人口推移（各年の数値：総数は1月1日現在）



資料：住民基本台帳人口

市役所内部における自己評価(内部評価)と、市の附属機関である行政評価委員会での外部からの視点による評価(外部評価)により、第二次総合計画後期基本計画を総括しました。

内部評価



31の基本施策について1次評価、2次評価を行い、評価基準AからEまでの5段階で評価しました。

全体的に9割以上の評価がCとなりました。

【評価基準】

- A 計画を大きく上回る成果が出ている
- B 計画をやや上回る成果が出ている
- C 計画どおりの成果が出ている
- D 計画をやや下回る成果となっている
- E 計画を大きく下回る成果となっている

C評価以外の項目と評価内容

基本施策24:スポーツの振興【B】

賑わいづくりの推進については、一定の成果が見られています。これからは、スポーツを通じた地域共生社会の実現を目指す必要があります。

基本施策15:商工業の振興【D】

産業教育は着実に充実が図られている一方で、労働政策については、抜本的な見直しと新たな展開が必要です。

基本施策29:地域コミュニティの活性化【D】

地域コミュニティと自治会のあり方について、今こそ抜本的な見直しを行うべきです。

※令和7年度第二次丸亀市総合計画後期基本計画行政評価(内部評価)報告書より抜粋

外部評価



(行政評価委員会からの主な指摘)

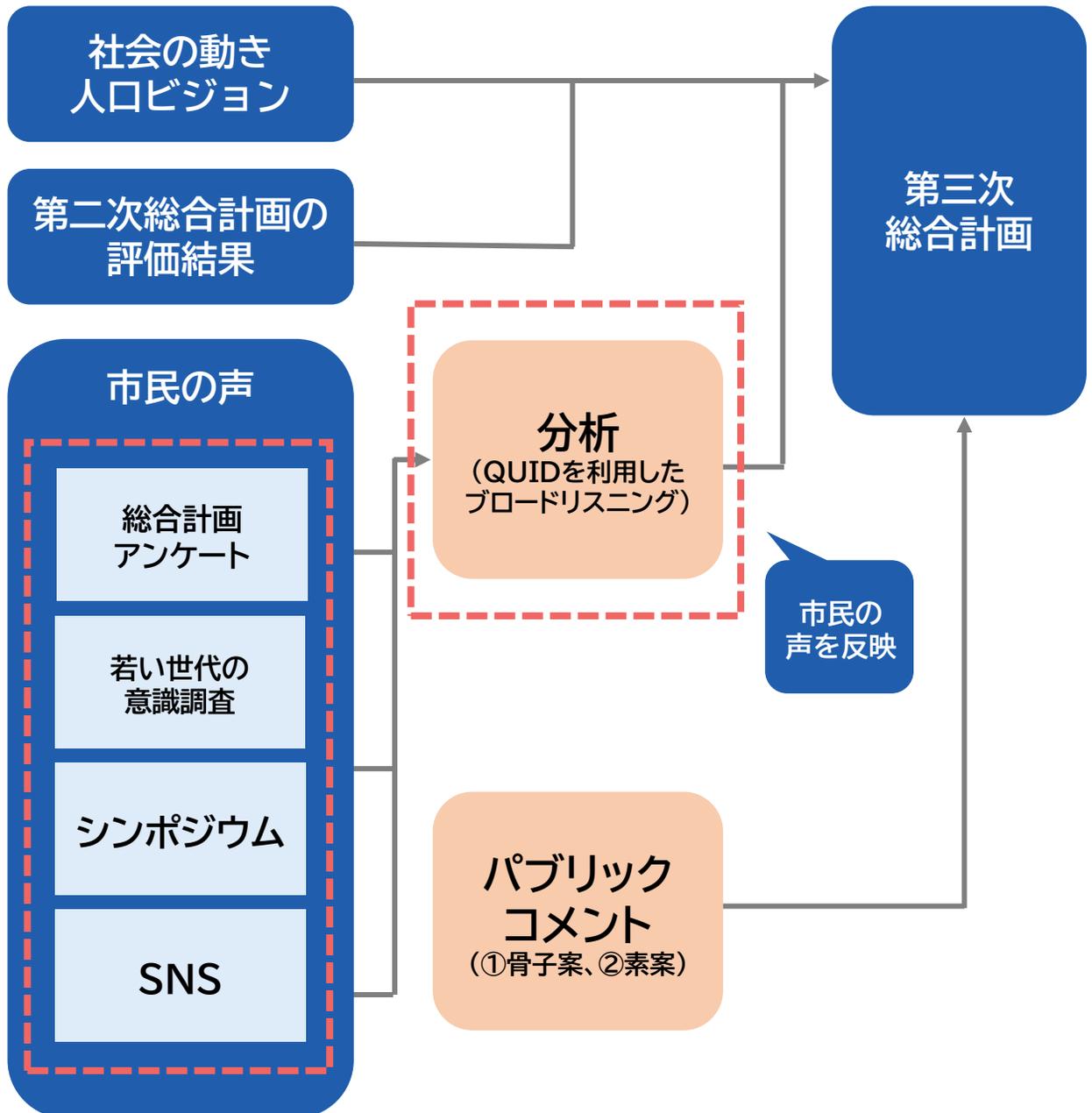
- 162の成果指標の達成状況から、全体としては概ね順調に推移していると評価します。
- 現行の成果指標はアウトプット指標に偏っており、新たな総合計画では、市民満足度や行動変容など**アウトカム指標への転換**が求められます。
- 行政課題が複合化・多様化する社会情勢の中で、縦割り行政からの脱却を図り、部署を超えて同じ目標に向かって連携できるよう**「横串の視点」を明示的に組み込む**必要があります。
- とりわけ、中心市街地の活性化に向けた取組は不可欠です。

行政評価委員会

市関係者以外の委員によって構成され、市が行う施策や事務作業について、妥当性や有効性など外部の視点で評価し、行政評価の着実な推進を目的とする機関です。

4 市民意見の聴取

市民の声を施策に反映するため、市民意識の把握を多角的に行いました。アンケート調査、シンポジウム、SNSなどを通じ、市民の本音や期待を受け止めることに努めました。



※ブロードリスニング…SNSやニュース、ブログなど多様な公開情報を横断的に収集・分析し、世の中の意見や関心、社会的な潮流を広く把握する手法。

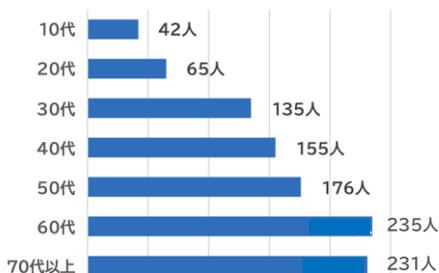
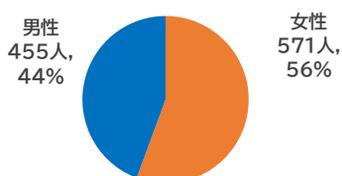
※パブリックコメント…行政機関が政策や制度の案を公表し、それに対して市民や事業者などから広く意見を募集し、最終的な政策決定の参考とする仕組み。

「市民の声」意見の総量/性・年代別属性

回答された世代に偏りが出ないように、様々な手法を用いた調査を実施しました。
※性別、年代が不明な投稿者／回答者はグラフから除外

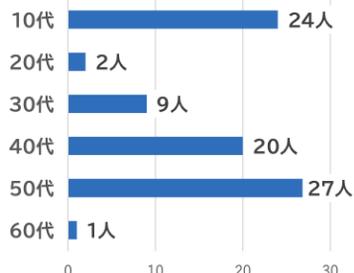
■総合計画アンケートの指標

1,042
回答者



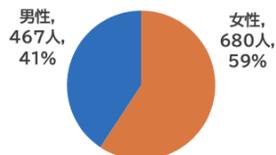
■シンポジウムの指標

83
回答者



■若い世代の意識調査の指標

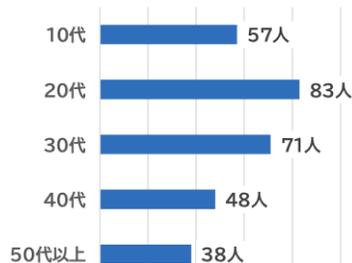
1,152
回答者



※若い世代の意識調査は20歳前後を対象に実施したため、年代グラフなし

■SNSの指標

3,183
投稿者



総合計画アンケート結果のまとめ

16歳以上の市民3,000人等を対象に、まちづくりについて、普段感じることやこれからのまちづくりに求めることなど、総合計画に反映させるためのアンケートを実施しました。

このアンケートからは、セクションごとの傾向のほか、重要度が高く、満足度の低い取組について重点的に取り組んでいくことが求められています。

●調査の方法

対 象: 16歳以上の市民（住民基本台帳より無作為抽出）

方 法: 郵送配布、郵送及びWeb回収

時 期: 令和7年5月下旬～6月16日

1,042
回答者

HP 18人

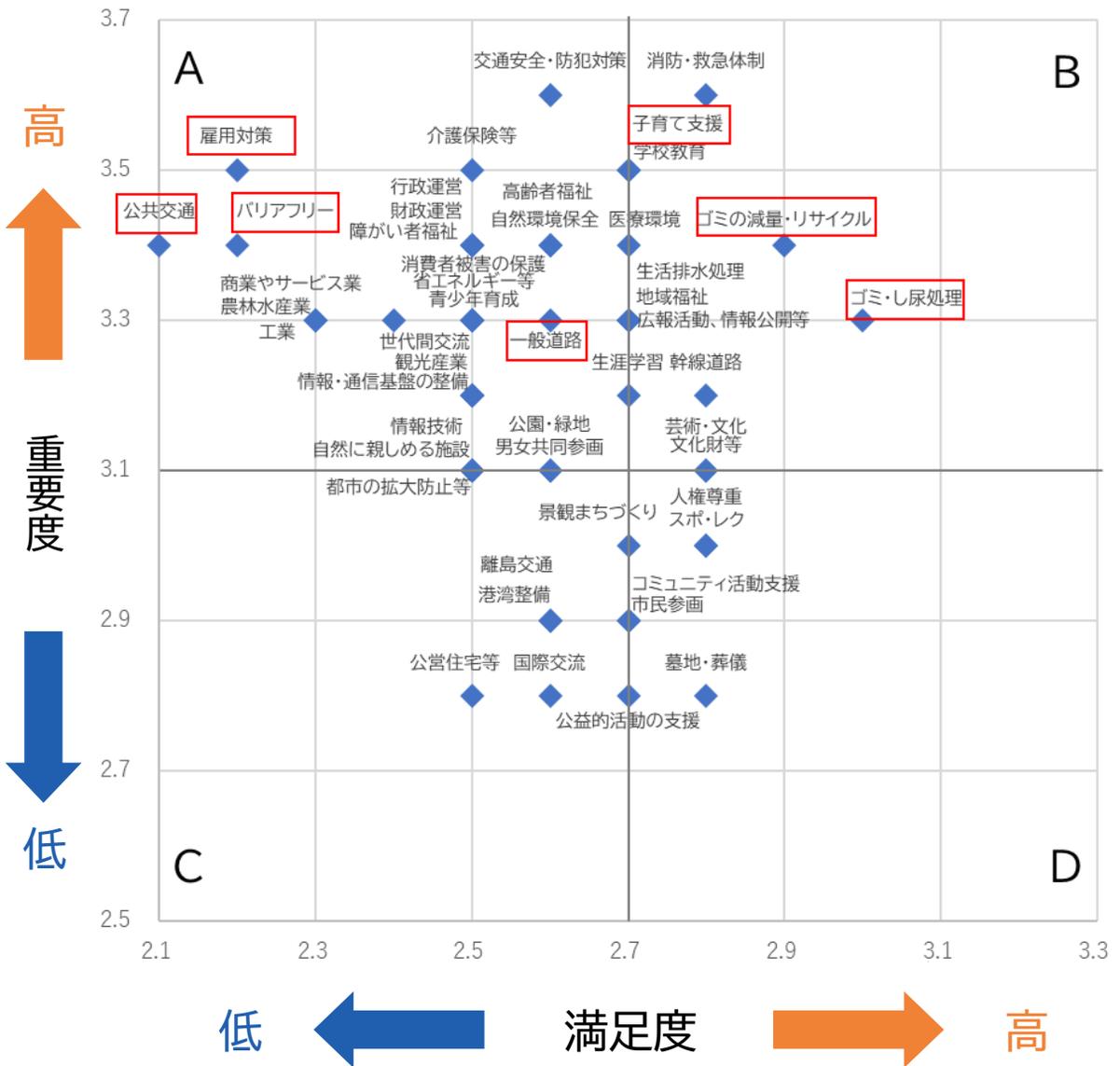
オンライン 289人

郵便 735人

セクション	結果の概要
①あなた自身のことについて(Q1-4)	<ul style="list-style-type: none"> 回答者の性別は男性44%、女性55%(その他1%)となっており、年齢は50歳以上が6割を占めています。 回答者の居住歴は10年以上が8割を占めています。
②丸亀市での生活について(Q5-8)	<ul style="list-style-type: none"> 暮らし続けたいという住民は8割を超えていました。 丸亀市の魅力については「買い物など日常生活が便利」が前回に続き割合が高く上昇していました。 不足している魅力については「趣味や娯楽の場が少ない」の割合が前回に続き高いですが、「まちの魅力に乏しく、個性がない」「行政サービスがよくない」については、前回から割合が低下しています。 年齢別の居住継続意向では、16～19歳の「これからもずっと暮らし続けたい」が10.7%低下していますが、「いったんは離れても、また戻ってきたい」が25.0%増加しています。
③若者の地元定着・地元回帰について(Q9-11)	<ul style="list-style-type: none"> 若者が地元に戻ることの障壁として、働く場所の少なさが4割以上を占めており、ほかにも娯楽や余暇の楽しみの少なさなどが挙げられていました。 必要なものとしては、上記同様に働く場所のほかに子どもを育てられる環境やイベントの充実が挙げられていました。 その他の自由記述の意見としては、若者が充実した生活ができる環境(職場、娯楽、将来設計)や大学や就職先などの高校卒業後の進路に関するものが挙げられていました。
④丸亀市の取組の現状と今後について(Q12) ※詳細は次ページ	<ul style="list-style-type: none"> 満足度が低く、今後の重要度は高いとする意見が多い分野(重点改善分野)として、「雇用対策/公共交通/バリアフリー/工業/農林水産業/商業やサービス業」が挙げられています。 前回調査時の重要項目(赤枠)については「ゴミの減量・リサイクル」「子育て支援」で満足度向上が見られ、そのほかの5項目では満足度低下が見られました。
⑤人口減少対策について(Q13)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少を止めるための意見として、子育て世代や若い世代に対して今以上に支援策を充実させることや、県外流失への対応策として働く場を充実させ、地元へ戻りやすくするなど意見が見られました。

丸亀市の取組の現状と今後について

- ・ 前回調査時の重要項目(赤枠)については「ゴミの減量・リサイクル」「子育て支援」で満足度向上が見られ、そのほかの5項目では満足度低下が見られました(前回との比較は次ページ参照)。
- ・ 「C:改善分野」の項目については満足度・重要度ともに上昇傾向にありました。



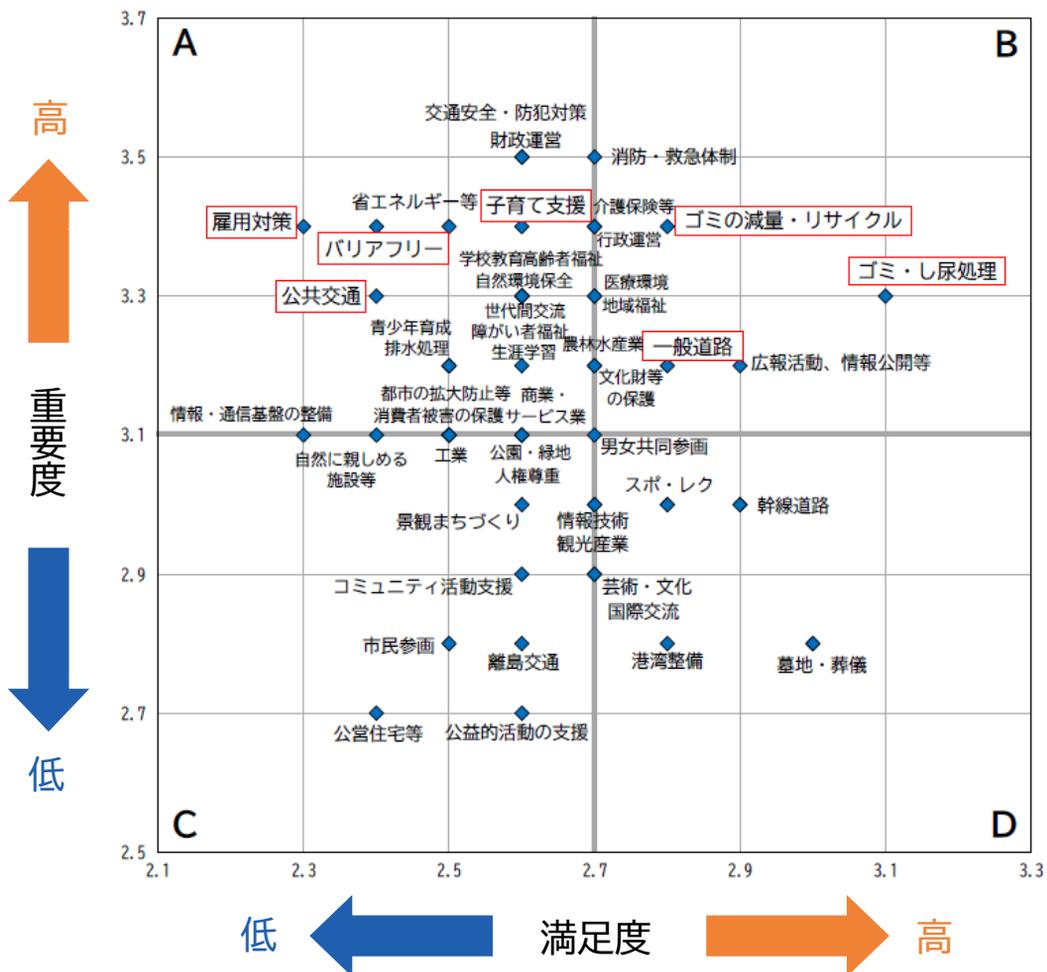
■前回の調査結果から増減の大きい項目

(参照:第二次丸亀市総合計画後期基本計画)

項目	前回の調査		今回の調査	
	満足度	重要度	満足度	重要度
ゴミの減量・リサイクル	2.8	3.4	2.9	3.4
一般道路	2.8	3.2	2.6	3.3
バリアフリー	2.4	3.4	2.2	3.4
公共交通	2.4	3.3	2.1	3.4
ゴミ・し尿処理	3.1	3.3	3.0	3.3
雇用対策	2.3	3.4	2.2	3.5
子育て支援	2.6	3.4	2.7	3.5

■前回の調査結果

(参照:第二次丸亀市総合計画後期基本計画)



若い世代の意識調査結果のまとめ

若い世代の実態やニーズを把握するためのWebアンケートを実施しました。
このアンケートからは、丸亀市の若い世代は「地元への愛着」が強い一方で、「交通・買い物・娯楽」など生活利便性や若者向けの環境整備に課題を感じており、若者のニーズに応える新たな魅力や利便性の向上が求められています。

●調査の方法

対象: 18歳～23歳の市民 5,121人
方法: 郵送配布、Web回収
時期: 令和6年12月26日～令和7年1月20日

●回答者数

1,152
回答者 (オンライン)

セクション	結果の概要
①回答者の属性等	<ul style="list-style-type: none">回答者の性別は、男性40.5%、女性59.0%(その他0.4%)です。回答者の状況は、学生61.2%、社会人34.5%、無職4.3%です。回答者の居住地は、市内65.7%、市外(県内)2.9%、県外31.3%、国外0.2%です。市外・県外居住の理由は、進学93.7%、就職5.1%、その他1.3%
②丸亀市への定住意向	<ul style="list-style-type: none">住み続けたい・戻りたいは、82.6%(「思う」「どちらかと思う」の合計)と8割を超えていました。住み続けたい理由は、生まれ育った場所だから(50.7%)が一番多く、住み続けたくない理由は、やりたいこと(仕事・趣味など)ができない(39.0%)他の地域で生活してみたい(30.5%)が6割を占めていました。
③丸亀市の魅力・足りないもの	<ul style="list-style-type: none">魅力: 安心して暮らせる(防災・防犯など)40.0%、日常生活が豊か(買い物・交通など)18.5%、自然が豊か18.1%、歴史・文化が豊か7.4%です。足りないもの: 日常生活が豊か(買い物・交通など)26.3%、賑わいがある24.5%、働きやすい20.5%、子育てしやすい9.8%、安心して暮らせる(防災・防犯など)6.2%、その他6.6%(例: 娯楽施設、交通機関、若者向けの店、公園、賃金上昇、イベントの充実等)です。
④丸亀市での一番の思い出(キーワード集計)	<ul style="list-style-type: none">丸亀城20.8%、お城まつり20.7%、学校15.2%、婆娑羅まつり7.3%、友達5.7%、実家・家族3.4%ほかです。

丸亀市市制施行20周年記念シンポジウム

市制施行20周年を記念し、「夢を叶える～未来を描く、わたしの一步～」と題したシンポジウムを開催しました。会場には約170人の市民らが集まり、丸亀市の未来について語りました。シンポジウムを通じて、若い世代の声を積極的に取り入れること、こどもだけではなく、大人もイキイキすることの大切さなどが導かれました。

●開催概要

日時：2025年8月24日(日)
13:30～15:30

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
2階ミュージアムホール

参加者：170名

●プログラム内容

第1部：トークセッション

講師：坪田 信貴 氏・小林 さやか 氏

仲の良いお二人をゲストに迎え、勉強のやり方や進路の選び方など、今すぐ役立つ話をしてもらいます。「将来どうしたい?」「どんな道がある?」と悩んでいる人にぴったり。聞いたことをヒントに、「自分だけの未来の地図(ロードマップ)」を描いてみましょう!

第2部：パネルディスカッション

パネリスト：松永 恭二・佐々原 悠馬 氏・坪田 信貴 氏・小林 さやか 氏

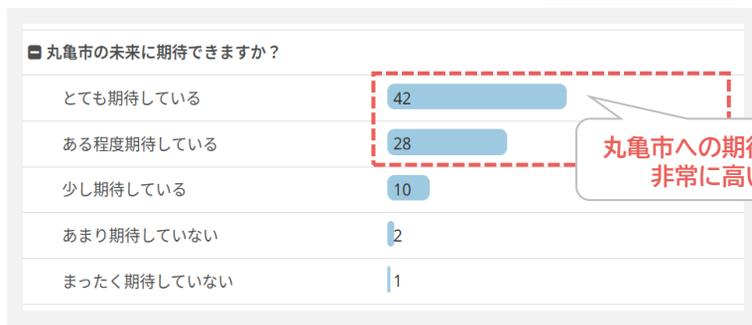
みんなの思いや悩み、そして「丸亀市がこうなったらいいな!」という意見を直接伝えられる時間です。このディスカッションで出たアイデアは、丸亀市の未来を決める大事な計画「第三次丸亀市総合計画」に反映されます。あなたの声が、丸亀の未来を動かす力になる!

●小林さやか氏プロフィール

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』(坪田信貴・著)の主人公であるビリギャル本人。慶應大卒業後はウェディングプランナーとして従事した後、ビリギャル本人として500回以上の講演や記事執筆など、幅広い分野で活動しながら、教育科学の研究のため聖心女子大学大学院に進学、修士課程を修了。また、「子どもの能力を信じて引き出すことができる教育者の育成」を研究テーマに、米国コロンビア教育大学院で認知科学を専攻し、2024年にオールAにて修了。新著に「私はこうして勉強にハマった」(サンクチュアリ出版)がある。

シンポジウムアンケートより

83 回答者



自由記述欄の回答まとめ

■ロードマップ(将来の目標や夢)の実現に向け、チャレンジしたいこと

学習の習慣化や大人になってからの学び直しのモチベーションにつながっています。子育て世代のこども・自身の学習への意識向上にもつながっています。

■丸亀市に期待していること

観光を生かした街の発展や、若者や高齢者などの多様な世代が住みやすいまち、コミュニティバスの最終便の運用改善について意見がありました。

■シンポジウムを通じて感じたこと、印象に残ったこと

市長や若者の声に触れる機会への感謝、丸亀市の発展への期待が寄せられるとともに、小林さんの最後の言葉「大人がイキイキと輝いていれば、こどもたちも自然と夢や目標を持ちやすくなる」が印象に残ったという声もありました。

SNS分析結果のまとめ

市民等が普段発信しているSNS(Instagram、X)の投稿から20カテゴリに対する意見や声を収集・分析し、その結果の概要をまとめました。

●調査の方法

分析対象:①プロフィールなどから丸亀市在住と判別できる投稿者

②投稿内で丸亀市への言及が見られる投稿

分析対象期間:令和4年4月1日～令和7年6月30日

分析内容:各カテゴリ別に丸亀市に対する投稿を分類し、それぞれの投稿数/投稿者数/頻出キーワードなどからデータを深掘り、課題の抽出と概要の整理を実施

3,183
投稿者

SNSの指標(カテゴリ別の課題と市民の声)



No.1 こどもの教育

不登校児童生徒への支援、教育格差の解消

- ・不登校でも通信制に通いながら、難関大学への合格を目指しています。
- ・高校の受験倍率も低くなっており、都会との教育格差が気になります。



No.2 子育て

子育て支援への高い満足度、子育てしやすさのPRの必要性、保育士の確保と質の向上

- ・支援には満足しているが、こどもの保育環境とキャリアアップを支援してほしいです。



No.3 環境

SDGsへの高い関心、太陽光パネルの問題、自然との共生

- ・丸亀城の保全のために伐採した木の活用はSDGsにもつながります。
- ・廃棄物となった太陽光パネルの処理が課題となっています。



No.4 土地利用と住環境

空き家の解消に向けた住環境の支援、多様な主体と連携したえきまちエリアの活性化

- ・空き地も公園も少なく遊び場がない。空き家も増えています。



No.5 公共交通とインフラ整備

バス等の公共交通機関の整備、高齢者の移動手段確保、地域に応じた交通施策

- ・バスの本数やバス停が少ないのが辛いです。車社会に合わせた交通施策の実施を希望します。



No.6 災害への備え

南海トラフ地震への備え、災害情報の発信・共有、市民の防災意識の向上

- ・南海トラフはいつ起こるかかわからないので、できる限りの準備をしないといけない。
- ・防災に向けた対策と対応の認知度が薄いように感じます。



No.7 地域経済

えきまちエリアの活性化、地域コンテンツや特産品の魅力発信

- ・シャッター街からの脱却には、空き店舗の活用や自治体のサポートが必要です。
- ・お城まつりの出演者やお客さんが、商店街に寄ってくれることも大切です。



No.8 観光

観光客のマナー向上、観光地の環境整備、観光客の誘致に向けたPR

- ・丸亀城周辺の観光客は増えているが、飲食店が少ないです。
- ・瀬戸内国際芸術祭は県外観光客が多く、お城まつりは地元の人を楽しんでいます。



No.9 医療

高齢化社会に伴う医療サービス低下、暮らしと医療の連携、スポーツを活用した健康寿命の延伸

- ・医療レベルが向上し、高齢者が増加しているので、それに対応する仕組みの検討を希望します。



No.10 福祉

社会福祉の理解向上、高齢者支援、介護従事者の処遇改善

- ・社会福祉を受ける人への風当たりが強いので、理解向上が大切です。
- ・住民の高齢化に対応するため、民間企業と行政、住民の連携が重要です。



No.11 地域資源

市のシンボル丸亀城を中心とした観光振興、地域コンテンツのPR

- ・丸亀城の活用、若者などが楽しめる施設の誘致をして、まちの活性化を希望します。



No.12 文化

文化芸術の振興、伝統文化の継承、イベントを通じた地域文化醸成

- ・文化、芸術を発表できる多機能な施設と若い人材、地元愛を育む教育が必要です。



No.13 学び

生涯学習センター閉館に伴う多様な学習機会や居場所確保、学びの成果の地域還元

- ・こどもと地域のワークショップに参加。春からの新生活に向けた、良い経験になりました。



No.14 スポーツ

豊富なスポーツ施設やイベントによる賑わい創出、多様な層へのスポーツ参加機会提供

- ・普段は車に乗ってばかりなので、秋のウォーキング大会に参加します。



No.15 多様性・人権の尊重

差別に関する理解促進、多様性や人権への理解を深める必要性

- ・男性と女性が共に子育てできる環境や職場環境の改善が大切だと思います。
- ・性別や年齢などの多様性を進める運動の社会への影響は大きいです。



No.16 男女共同参画社会

女性等へのアンコンシャスバイアス(無意識の思い込みや偏見)、仕事と家庭の両立、女性のキャリアアップ

- ・育休取得のハードルが高いです。スキルアップをしたいが、仕事と家事の両立が難しいです。



No.17 デジタル化と広報

行政サービスなどを身近に感じるための情報発信、地域のICT人材の育成、自治体DX

- ・より良いまちづくりに向けた取組の状況など、デジタルを活用した情報発信が重要です。



No.18 市民活動

市民参加による地域課題解決とキャリアアップ、市民の声を反映したまちづくり

- ・子育て経験を生かして、おやつ教室を開催しました。子育てママをサポートしたいです。



No.19 地域コミュニティ

若者の地域活動への参画促進、地域における交流機会の創出、自治会加入による負担

- ・地域の方々と交流できる機会や場所が少ないように感じます。



No.20 市の行財政運営

多様な層に合わせた行政運営、行政の情報発信とデジタル化

- ・老後のモデルとなる生き方を行政が支援することが未来の処方箋になります。
- ・行政の支援やサポートとともに、地域の人々の温かい声かけが必要です。

社会の変化や前計画の達成状況を検証するとともに、市民アンケートやSNS分析などを通じて寄せられた市民の声をもとに、課題を5つにまとめ、今後の方向性を示す基本方針を打ち出しました。

【課題1】
子育て・教育を取り巻く環境の変化

基本方針Ⅰ
「心豊かなこどもが育つまち」

【課題2】
人材流出と地域活力の低下

基本方針Ⅱ
「活力みなぎるまち」

【課題3】
安全安心な暮らしの揺らぎ

基本方針Ⅲ
「安心して暮らせるまち」

【課題4】福祉・医療ニーズの拡大と
価値観の多様化

基本方針Ⅳ
「健やかな笑顔ひろがるまち」

【課題5】地域のつながりの希薄化と
魅力発信の不足

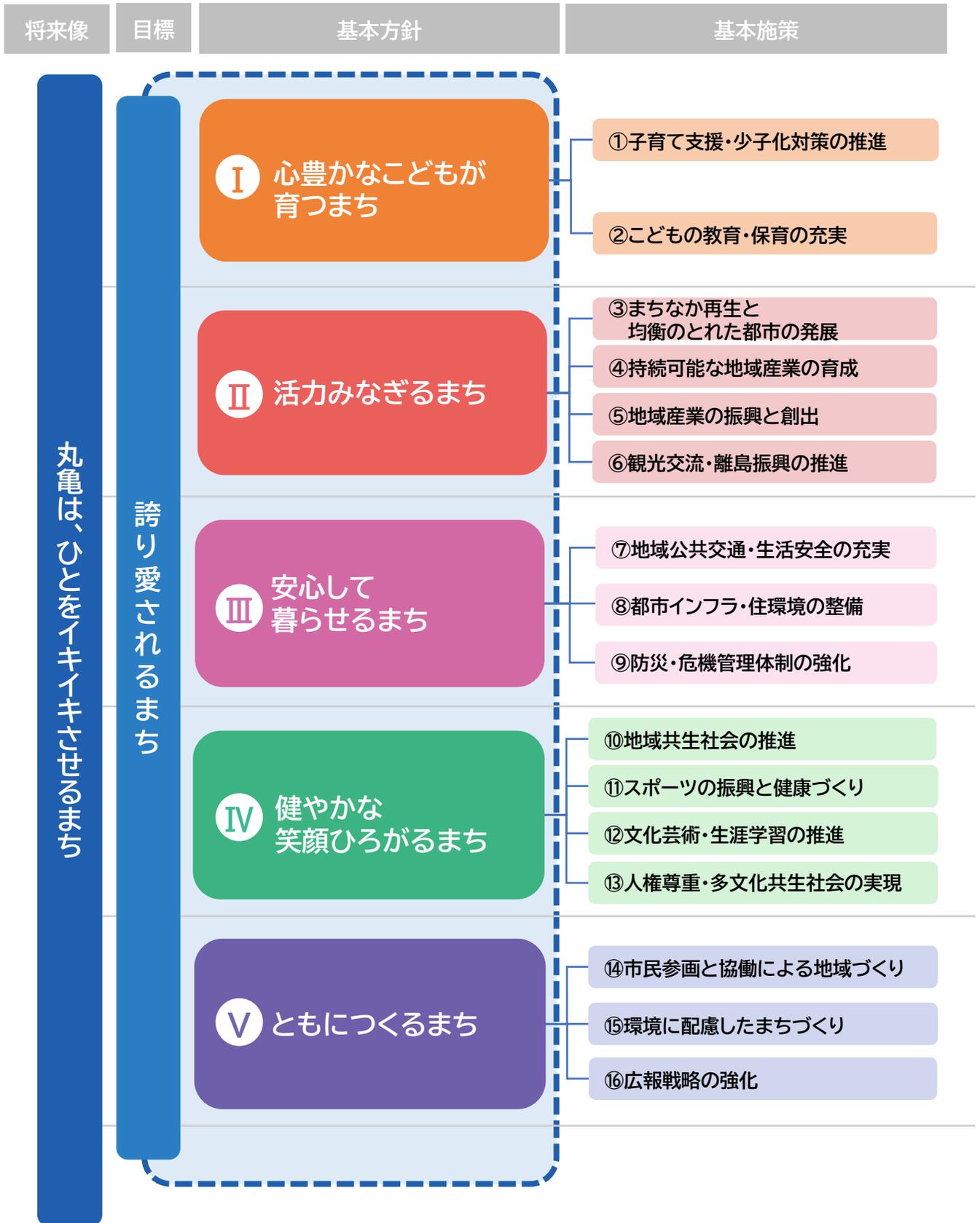
基本方針Ⅴ
「ともにつくるまち」



第3章

未来をカタチにする アクション



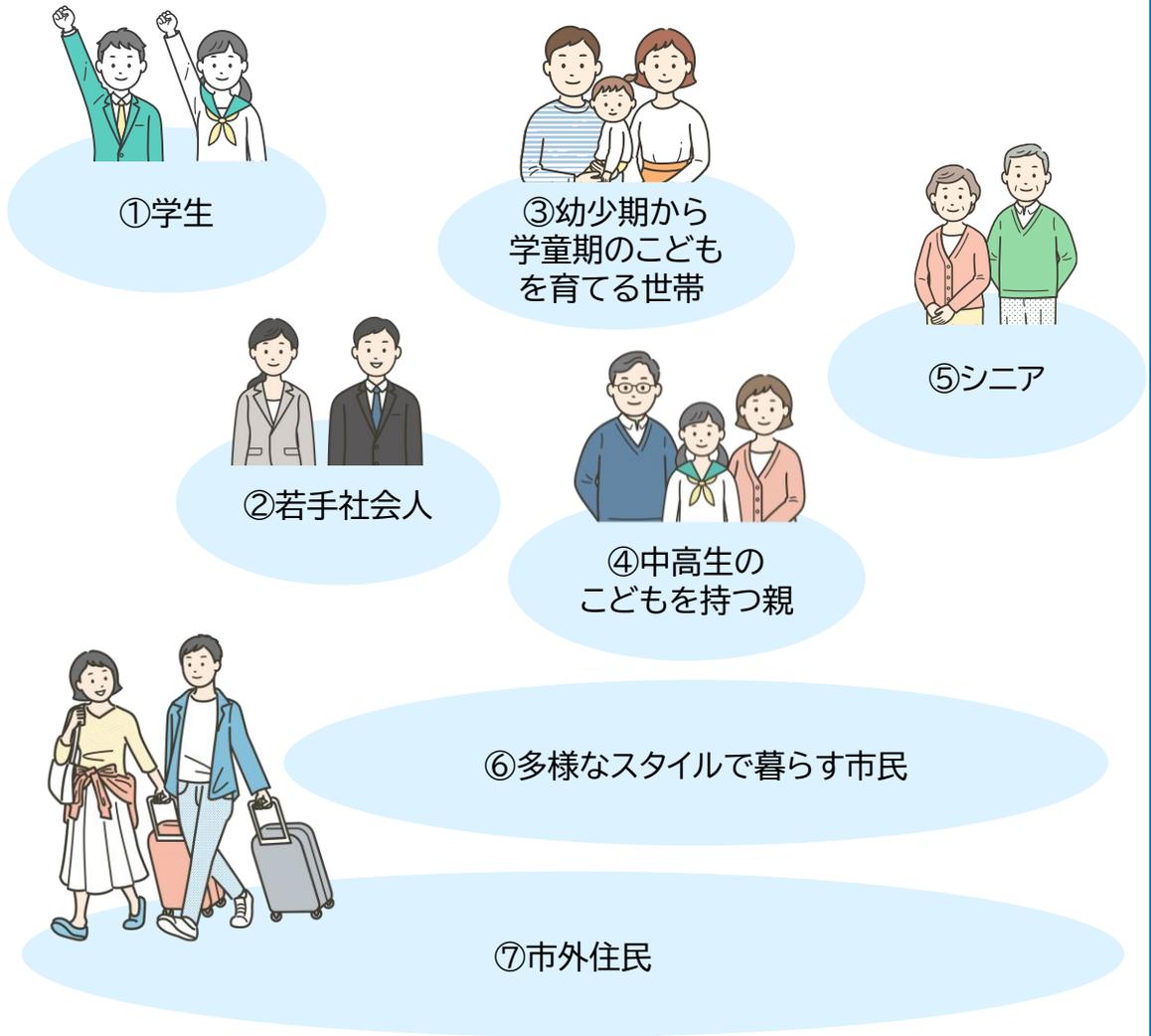


主要な取組

結婚や出産の希望を叶える支援	子育て期の相談・支援	妊娠・出産・子育ての負担軽減	こどもが安心して過ごせる居場所づくり
待機児童の解消	若者支援の充実		
人づくり石垣プロジェクトの推進	学校教育施設の整備	学校給食による食育の充実	就学前教育・保育の充実
地域の特性に応じたまちづくり	まちなか再生への挑戦	大手町地区4街区の再編	適正かつ戦略的な土地利用
担い手の育成・確保	産業教育の充実	労働政策の推進	
生産基盤の強化	地域産業の競争力強化	働く場の創出	地場・伝統産業の振興
地域資源を生かした交流拡大	離島活性化	移住・定住の促進	都市間交流の推進
既存の地域公共交通のリデザイン	移動手段の充実・確保	新たな交通システムの検討	身近な暮らしの安全対策
道路整備の推進	下水道施設・設備の安全性確保	公園の整備	空き家対策の推進
良質な住環境の確保			
総合排水計画の推進	災害に強いまちづくり	防災体制の充実	消防力の強化
暮らしを支える福祉の充実	高齢者福祉の充実	障がい者福祉の充実	
スポーツの力を活かしたまちづくりの推進	充実したスポーツ施設の活用促進	健康づくりの推進	地域保健・医療の充実
本物に触れる文化芸術の振興	市民文化芸術活動の推進	生涯学習の推進	歴史・文化の継承
人権尊重に関する条例の推進	男女共同参画社会の実現	多文化共生の推進	
自治基本条例の推進	多様な連携の推進	地域づくりへの支援	主権者教育の推進
ゼロカーボンシティの推進	豊かな自然環境の保全	ごみ減量化と再資源化の推進	
ニーズに応える情報発信	シティプロモーションの強化	地域情報化の推進	

総合計画は、市民の幸せのために策定するものであり、誰一人取り残さない社会を目指す「人」のためのものです。生き方や世代によって、求める施策は異なります。本計画では「人」に着目し、市民一人ひとりが総合計画の内容を自分ごととして捉えられるよう、「人」や「ライフステージ」に応じた市とのつながりを見える化します。

「自分ごととして捉えていただく」ための 市民像(人)を設定



①学生



学校生活に励みながら、学び・進路・友だちとの関係、そして地域とのつながりを模索し、丸亀での将来についても考え始めている小学生・中学生・高校生・大学生。

『勉強も部活ももっとがんばりたい』 小・中学生

放課後に宿題をしたり、遊んだりできる場所がもっとあったらうれしいな。

こどもが安心して過ごせる居場所づくり(P45)

公園の整備(P59)

部活動以外でも気軽に運動したいな。

充実したスポーツ施設の活用促進(P65)

産業教育の充実(P51)

地元でどんな仕事があるんだろう？

人づくり石垣プロジェクトの推進(P47)

自分の“好き”を伸ばせる体験が増えるといいな。



丸亀の歴史・文化を学びたいな。

本物に触れる文化芸術の振興(P66)

『進学や仕事など将来の進路が不安…』 高校生・大学生

若者支援の充実(P45)

進学や就職がうまくいくな。

主権者教育の推進(P71)

選挙ってどんな感じなんだろう。

自分のやりたい仕事があるか心配だな。

地域産業の競争力強化(P53)

働く場の創出(P53)



卒業しても丸亀とつながっていたいな。

シティプロモーションの強化(P75)

②若年社会人



社会人としての生活にも慣れ、仕事とプライベートの充実を図る一方で、将来の暮らし方や働き方について考え始める若年社会人。

結婚、キャリア、様々なことに 関心を抱く20代社会人

結婚や出産の希望を叶える支援(P45)

将来、結婚できるのか不安だ。

人口が減って、まちが寂しくならないか不安だ。

地域の特性に応じたまちづくり(P49)

まちなか再生への挑戦(P49)

大手町地区4街区の再編(P49)

適正かつ戦略的な土地利用(P49)

若者支援の充実(P45)

奨学金の返済が負担だ。

生産基盤の強化(P53)

農業を始めるのもいいな。

新しいことにチャレンジしたい。

働く場の創出(P53)



仕事だけでなく、市政や地域との つながりに関心を抱く社会人

人権尊重に関する条例の推進(P69)

LGBTなど多様な価値観を尊重してほしい。

住んでいる地域にもっと活気がほしい。

多様な連携の推進(P71)

地域づくりへの支援(P71)

多文化共生の推進(P69)

外国人の人たちとうまく暮らしていけるか不安。

自治基本条例の推進(P71)

市政に参加してみたい。

地球温暖化による気候変動の影響が不安だ。

総合排水計画の推進(P60)

ゼロカーボンシティの推(P73)



③ 幼少期から学童期のこどもを育てる世帯



子育てと仕事の両立に向き合いながら、日々の生活の安定や働き方、そして家族のこれからについて模索している共働き世帯。

こどもの成長と安心を最優先に考える世帯

就学前教育・保育の充実(P47)

質の高い教育・保育を受けさせたいな。

子育て期の相談・支援(P45)

子育てが大変で、頼れる相談相手が少ない。

待機児童の解消(P45)

保育所に入れるかな。

男女共同参画社会の実現(P69)

育児休業をとって子育てに専念したい。

労働政策の推進(P51)

仕事が忙しくてこどもと過ごせない。

仕事と暮らしを両立しながら家族の時間も大切にしたい 共働き世帯

身近な暮らしの安全対策(P57)

道路整備の推進(P58)

通勤や送迎に時間が取られ、ストレスを感じる。

人づくり石垣プロジェクトの推進(P47)

学校教育施設の整備(P47)

こどもを安心して預けられ、働き続けたい。

こどもの食習慣をサポートしてほしい。

忙しい中でも必要な支援に、簡単にアクセスしたい。

ニーズに応える情報発信(P75)

学校給食による食育の充実(P47)

休日は、ストレスを和らげる場所でこどもと過ごしたい。

豊かな自然環境の保全(P73)

④中高生のこどもを持つ親



子育ての手が離れ始めた一方で、こどもの進路や自身のキャリア、家族ケアなど、家族のこれからに向き合い始めている世帯。

こどもの進路・学び・生活に関する期待と不安を抱く 子育て世帯

担い手の育成・確保(P51)

人手が不足しており、こどもに跡を継いでほしい。

地域産業の競争力強化(P53)

地元においてほしいけど働くなら都会なのか。

バスの減便などで通学が大変だ。

既存の地域公共交通のリデザイン(P57)

移動手段の充実・確保(P57)

新たな交通システムの検討(P57)

人づくり石垣プロジェクトの推進(P47)

こどもの進路が心配…。将来に役立つ学びを受けさせたい。

急な病気が心配だ。

地域保健・医療の充実(P65)

親として今後の人生や、家族ケアの悩みを抱える世帯

空き家対策の推進(P59)

良質な住環境の確保(P59)

空き家、空き地が増えて生活環境が不安だ。

インフラ老朽化や防災面も不安だ。

道路整備の推進(P58)

下水道施設・設備の安全性確保(P59)

災害に強いまちづくり(P61)

健康づくりの推進(P65)

自分自身の健康寿命を伸ばさないと。

暮らしを支える福祉の充実(P63)

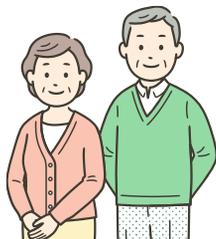
高齢者福祉の充実(P63)

親の介護が始まり、仕事との両立が不安だ。

労働政策の推進(P51)

こどもが自立し始め、自分のキャリアも考え直したい。

⑤シニア



退職後の生活を前向きに楽しみたい人から、日々の暮らしの安心を大切にしたい人まで、それぞれの状況に応じた不安や願いを抱えながら、地域との関わり方を模索しているシニア層。

健康・生きがい重視の アクティブ志向のシニア

市民文化芸術活動の推進(P67)

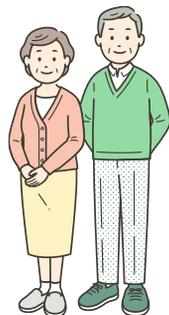
生涯学習の推進(P67)

仕事が落ち着いたので
新たな趣味を作りたい。

地場・伝統産業の振興(P53)

歴史・文化の継承(P67)

歴史文化を
次世代に伝えたい。



こどもに迷惑をかけないように
健康づくりにも努めたい。

健康づくりの推進(P65)

充実したスポーツ施設の
活用促進(P65)

担い手の育成・確保(P51)

地域産業の競争力強化(P53)

まだまだ働けるので
地域のために貢献したい。

生活・安全重視の セーフティ志向のシニア

フードロスや地域の
ごみ問題が気になるな。

ごみ減量化と再資源化の
推進(P73)

地域情報化の推進(P75)

デジタル機器の使い方が
わからず行政手続きが不安だ。



暮らしを支える福祉の充実(P63)

この先安定した暮らしが
できるのか心配だ。

障がい者福祉の充実(P63)

骨折などにより障害を
持ったらどうしよう。

介護に対する不安がある。

高齢者福祉の充実(P63)

⑥多様なスタイルで暮らす市民

家族構成や生き方が多様になるなか、様々な生活上の困り事を抱えつつ、それぞれの状況で支援やつながりを求めながら暮らしている市民。

妊娠・出産・子育ての負担軽減(P45)

子どもが安心して過ごせる居場所づくり(P45)

一人で仕事と育児の両立が難しい。

人づくり石垣プロジェクトの推進(P47)

子どもの勉強や体験不足が不安だ。

車を持っておらず移動が不便だ。

既存の地域公共交通のリデザイン(P57)

移動手段の充実・確保(P57)

困ったとき頼れる人がいない。

暮らしを支える福祉の充実(P63)



災害が起こったらどうしよう。

災害に強いまちづくり(P61)

防災体制の充実(P61)

消防力の強化(P61)

一人で寂しく家に引きこもりがちだ。

充実したスポーツ施設の活用促進(P65)

生涯学習の推進(P67)

市民活動を通して地域を元気にしたい。

地域づくりへの支援(P71)

行政の支援を把握して活用したいな。

ニーズに応える情報発信(P75)

⑦市外住民



丸亀市に関心を持ち、交流を通じて関わりを深めたい人から、将来の移住やUターンを見据えて“住むまち”として丸亀を検討している人まで、多様な形で丸亀とつながりたいと感じている市外住民。

観光・交流志向の関係人口 (関わりたい層)

丸亀ってどんなところだろう？

シティプロモーションの強化
(P75)

瀬戸内海の島にも
興味がある。

離島活性化(P55)

新しい市民会館の
コンサートに行きたいな。

本物に触れる文化芸術の振興(P66)

地域資源を生かした交流拡大(P55)

都市間交流の推進(P55)

丸亀に行ってみたいな。

丸亀市民球場でファンの
野球チームが試合をやるな。

スポーツの力を活かした
まちづくりの推進(P64)

移住・Uターン志向の定住希望者 (住みたい層)

地域の特性に応じたまちづくり(P49)

豊かな自然環境の保全(P73)

自然に囲まれながら
利便性の高い暮らしがしたい。

まちなか再生への挑戦(P49)

大手町地区4街区の再編(P49)

丸亀のまちは
にぎわっているのかな。

移住・定住の促進(P55)

地域づくりへの支援(P71)

地域に溶け込めるかな。

地域産業の競争力強化(P53)

働く場の創出(P53)

働く場所はあるのだろうか。

ページの見方

■基本方針・基本施策

基本構想で掲げた将来像を実現するための大きな柱です。

■目指す未来の姿

この基本施策が目指す「未来の姿」を、計画期間内に実現したい**短期的視点**と、その先を見据えた**長期的視点**で描きました。

基本方針 ① 心豊かなこどもが育つまち

基本施策 1 子育て支援・少子化対策の推進



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 結婚や出産を望む人の希望が叶い、妊娠・出産期から子育て期までのライフステージごとに、安心してこどもを産み、地域全体で大切にこどもを育てています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 「このまちでこどもを産み育てたい」と思えるまちになっています。
- こども、若者が未来に希望を持ち、健やかに育っています。

現状と課題

■現状と課題

丸亀市の現状と抱えている課題をまとめられています。

- 価値観の多様化から結婚・出産への意識が変化するとともに、結婚・出産を希望しながらも、経済的な不安や出会いの機会が乏しく、未婚化・晩婚化の進行や合計特殊出生率の低下が進んでいます。
- 核家族化や共働き世帯の増加など、子育て環境が変化する中、育児不安や孤立化防止のため、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が必要です。
- 社会情勢の変化の中にあっても、安心してこどもを育てられるよう、総合的な支援の仕組みが求められています。

ページの見方

■主要な取組

未来の姿の実現に向け、特に大事な取組と、その方向性を示しています。
 ※第3期未来を築く総合戦略の取組には、「総合戦略」のアイコンをつけました。

主要な取組

結婚や出産の希望を叶える支援 総合戦略

- 多様な価値観を尊重しつつ、家庭を持つこと、家族を増やすことに前向きになれるよう、出会いの場の提供やサポートする取組を進めます。

子育て期の相談・支援 総合戦略

- 妊娠期をはじめ、子どもが0歳から概ね18歳までの子育て期間、家庭に寄り添い、関係機関と協力して総合的なサポートを提供するとともに、子育て世代の交流や相談ができる地域拠点を整備します。

妊娠・出産・子育ての負担軽減 総合戦略

- 子どもを産み育てることに対する不安を和らげるよう、継続的な支援を行います。

子どもが安心して過ごせる居場所づくり 総合戦略

- 子どもが放課後や休日に安心して過ごせる居場所を充実させるとともに、子どもの権利や意見にも目を向け、健やかな成長を支えます。

待機児童の解消 総合戦略

- 業務負担の軽減や働き方改革など保育士確保に取り組み、保育ニーズに応えられるよう努めます。

若者支援の充実 総合戦略

- 学生・社会人・子育て期などライフステージに応じ、若い世代に向けた多様な支援を行い、将来に希望を持って歩めるよう後押しします。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ **子育てを支える**
子育て支援に関する様々な団体・サークルに参画し、安心して子育てができる環境づくりに貢献します。
- ◆ **家庭を見守る・つなぐ**
親子それぞれ困っている方や、異変に気づいたら相談窓口へつなぎます。
- ◆ **縁を結ぶ**
幸せな結婚や子どもの居場所確保などに向けたボランティア活動に参加します。

KPI（重要業績評価指標）

	現状 (R8)	R 1 1
結婚・妊娠・出産に前向きになったと感じている市民の割合	R8 調査予定	
子育てしやすいと感じている市民の割合	R8 調査予定	

関連する個別計画

- 子ども未来計画

■市民ができる協力・参画のかたち

市民の皆さまにご協力いただきたい取組のイメージをまとめています。

■KPI(重要業績評価指標)

未来の姿に向けた達成状況を確認する指標です。
 ※令和8年度に市民アンケートを実施した後、具体的な数値目標を設定します。

■関連する個別計画

この基本施策と合わせて進める市の個別計画です。

基本方針 Ⅰ 心豊かなこどもが育つまち

基本施策1 子育て支援・少子化対策の推進



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 結婚や出産を望む人の希望が叶い、妊娠・出産期から子育て期までのライフステージごとに、安心してこどもを産み、地域全体で大切にこどもを育てています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 「このまちでこどもを産み育てたい」と思えるまちになっています。
- こども、若者が未来に希望を持ち、健やかに育っています。

現状と課題

- 価値観の多様化から結婚・出産への意識が変化するとともに、結婚・出産を希望しながらも、経済的な不安や出会いの機会が乏しく、未婚化・晩婚化の進行や合計特殊出生率の低下が進んでいます。
- 核家族化や共働き世帯の増加など、子育て環境が変化する中、育児不安や孤立化防止のため、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援が必要です。
- 社会情勢の変化の中にあっても、安心してこどもを育てられるよう、総合的な支援の仕組みが求められています。

主要な取組

結婚や出産の希望を叶える支援

総合戦略

- 多様な価値観を尊重しつつ、家庭を持つこと、家族を増やすことに前向きになれるよう、出会いの場の提供やサポートする取組を進めます。

子育て期の相談・支援

総合戦略

- 妊娠期をはじめ、こどもが0歳から概ね18歳までの子育て期の間、家庭に寄り添い、関係機関と協力して総合的なサポートを提供するとともに、子育て世代の交流や相談ができる地域拠点を整備します。

妊娠・出産・子育ての負担軽減

総合戦略

- こどもを産み育てることに対する不安を和らげるよう、継続的な支援を行います。

こどもが安心して過ごせる居場所づくり

総合戦略

- こどもが放課後や休日に安心して過ごせる居場所を充実させるとともに、こどもの権利や意見にも目を向け、健やかな成長を支えます。

待機児童の解消

総合戦略

- 業務負担の軽減や働き方改革など保育士確保に取り組み、保育ニーズに応えられるよう努めます。

若者支援の充実

総合戦略

- 学生・社会人・子育て期などライフステージに応じ、若い世代に向けた多様な支援を行い、将来に希望を持って歩めるよう後押しします。

市民ができる協力・参画のかたち

◆ 子育てを支える

子育て支援に関する様々な団体・サークルに参画し、安心して子育てできる環境づくりに貢献します。

◆ 家庭を見守る・つなぐ

親子それぞれ困っている方や、異変に気づいたら相談窓口へつなぎます。

◆ 縁を結ぶ

幸せな結婚やこどもの居場所確保などに向けたボランティア活動に参加します。



KPI(重要業績評価指標)

	現状(R8)	R11
結婚・妊娠・出産に前向きになったと感じている市民の割合	R8調査予定	

子育てしやすいと感じている市民の割合	R8調査予定	
--------------------	--------	--

関連する個別計画

- こども未来計画

基本方針 Ⅰ 心豊かなこどもが育つまち

基本施策2 こどもの教育・保育の充実



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 学校では、互いを思いやりながら共に成長できる学びの環境づくりが進み、社会全体でこどもを育てる環境が整ってきています。
- 学校教育施設の整備や食育の推進などの取組が進むことで、こどもたちがより安全で気持ちよく学べる場が充実してきています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- すべてのこどもたちが安心して過ごし、学べる場が保障され、自ら未来を切り拓く力と社会で共に生きる力が育まれています。
- 学びの積み重ねを通じて、地域や社会の担い手となるこどもたちが育っています。

現状と課題

- こどもたちが自ら学びに向かい、他者と関わりながら成長できる環境づくりが重要となる中、主体的・対話的な学びや地域とのつながりを育む教育の充実が求められています。
- 少子化の進行により児童生徒数の減少が見込まれ、今後の学校規模や学校配置の適正化を見据えた検討が必要となっています。
- 学校給食センターの老朽化の課題がある中で、栄養バランスに配慮した給食を安定的に提供し、食育をさらに推進していかなければなりません。

主要な取組

人づくり石垣プロジェクトの推進

総合戦略

- 学力定着や不登校の増加、自己肯定感の向上、部活動の地域展開、教職員の働き方改革などの課題解決に向けて、学校・家庭・地域が連携し、「人づくり石垣プロジェクト」を総合的に推進します。

学校教育施設の整備

総合戦略

- 学校施設長寿命化計画に基づき、安全・安心で学びやすい学校環境を計画的に整備します。
- 児童生徒数の減少を見据え、学校規模の適正化・適正配置に向けた検討を進めます。

学校給食による食育の充実

- 新第二学校給食センターの整備を着実に進め、栄養バランスに配慮した給食を安定的に提供します。
- 地産地消の推進や有機農産物の使用など、食育の充実に努めます。

就学前教育・保育の充実

総合戦略

- 幼稚園・保育所・こども園において、等しく質の高い教育・保育が受けられる体制を整えます。
- 施設間の交流や研修を通じて、職員の専門性と資質の向上を図ります。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 地域学校協働活動への参加
登下校の見守り、学習支援、郷土学習などのボランティアなどを通じ、学校とこどもを支えます。
- ◆ PTA・学校活動の応援
「できるひとが、できるときに、できることを」を合言葉に、家庭や地域の立場から無理のない範囲で学校活動を支援します。



KPI(重要業績評価指標)

こどもを安心して預け、学ばせられる環境が身近に整っていると感じている市民の割合	現状(R8)	R11
	R8調査予定	
こどもたちがのびのびと成長し、将来に希望を持てる環境が整っていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 教育大綱
- 学校教育方針
- 学校施設長寿命化計画
- 生涯学習推進計画

基本方針 Ⅱ 活力みなぎるまち

基本施策3

まちなか再生と均衡のとれた都市の発展



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 大手町地区4街区の再編整備を活かしたまちなか再生が歩み始め、ウォーカブルなまちづくりが進展しています。
- 様々な地域で官民連携の動きが本格化し、地域ごとの特性を生かしたまちづくりが着実に進んでいます。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 「コンパクト・プラス・ネットワーク」を基本理念に、市域全体で土地利用の最適化と都市構造の再編が進み、人口減少社会に対応した持続可能な都市が実現しています。
- まちなかには賑わいと回遊性が生まれ、ウォーカブルなまちが実現しています。

現状と課題

- 大手町地区4街区の再編整備が進む一方で、中央商店街では空き店舗率の高さや人通りの少なさが課題となっており、みなとエリアまでを含む一体的な活性化が求められています。
- 人口減少と人口密度の低下が進む中で、持続可能な都市構造へ転換しつつ、地域ごとの生活機能等を確保していく取組が必要です。
- 人口減少に伴い、効率性と多様性の観点から市域全体でのさらなる発展が課題となっています。

主要な取組

地域の特性に応じたまちづくり

- ・ 中心市街地のほか、地域拠点となる綾歌地区、飯山地区においても、地域資源を有効に活用したまちづくりを進め、多様な地域の形成により、誰もが暮らしやすい環境を整えます。

まちなか再生への挑戦

- ・ 「まるがめまちなか未来ビジョン」をもとに、新たな賑わいや人の流れを生み出す取組を推進し、歩いて楽しめるウォーカブルなまちなかの形成を図ります。

大手町地区4街区の再編

- ・ 都市機能が集約し、魅力ある拠点となるよう、大手町地区4街区の再編整備を着実に進めます。

適正かつ戦略的な土地利用

- ・ 都市計画の見直しを進めるとともに、既存ストック(すでに整備されている建物や道路などの資産)の有効活用を図ることで、人口減少社会に適応した持続可能な土地利用を推進します。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ まちなかの賑わいづくりへの参加
イベント、マルシェ、ワークショップに参加するなど、まちなかを歩くことで、賑わいの創出に貢献します。
- ◆ まちづくり活動への参加
多様な連携に参画し、自分のアイデアや意見を提案します。



KPI(重要業績評価指標)

イベントや人の賑わいを通じて、まちなか(中心市街地)に活気や楽しさを感じている市民の割合

現状(R8) R11
R8調査予定



どこに住んでいても暮らしやすいと感じている市民の割合

R8調査予定



関連する個別計画

- 都市計画マスタープラン(丸亀市立地適正化計画)
- 景観計画
- 空家等対策計画

基本方針 Ⅱ 活力みなぎるまち

基本施策 4 持続可能な地域産業の育成



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 産業界との連携による産業教育やキャリア支援が広がり、地域企業の人材確保や後継者育成に向けた基盤が整いつつあります。
- 多様な働き方に対応した支援策が進み、中小企業の働く環境の改善や魅力が向上しています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 地域で学び・働き・暮らすという循環が根づき、地場産業や中小企業を支える人材が継続的に育成・定着しています。
- 雇用の質が高まり、ライフステージに応じて柔軟に働き続けられる環境が整うことで、「丸亀で働き続けたい」と思う人が増えています。

現状と課題

- 市内の就業人口はこの10年間で大幅に減少し、特に若年層の地元定着が課題となっています。地域産業を支える技術・知識を持つ人材の育成や、UIターンを含む定着促進が求められています。
- 女性の就業率は高い一方で正規雇用の割合は約4割にとどまり、シニアの活躍機会も十分とは言えません。多様な人材が能力を発揮できる働きやすい環境づくりが課題となっています。
- 建設・製造・農業など地域の基幹産業を中心に、後継者不在による廃業リスクが高まっており、技術やノウハウの継承を含め、中小企業等が持続的に事業を継続できる体制づくりが急務です。

主要な取組

担い手の育成・確保

総合戦略

- ・ 若者に加え、女性や高齢者、外国人など多様な人材の確保・活用を図り、誰もが活躍できる環境づくりを進め、持続可能な企業経営を支援します。
- ・ 農林水産業では、経営発展に意欲的な事業者を幅広く担い手として捉え、多様な人材の発掘・育成に努めます。

産業教育の充実

総合戦略

- ・ 教育機関と地元企業の連携を強化し、就労体験や交流の機会を広げることで、子どもたちが市内企業の魅力に触れ、将来の地元就労につながるキャリア形成を支援します。

労働政策の推進

総合戦略

- ・ 企業の働き方改革や人材確保の取組を支援するとともに、「キッズウィーク」を象徴的な取組として、ワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。
- ・ ハラスメント対策など時代や社会情勢の変化に対応した働きやすい環境づくりと安定的な雇用確保に向けた施策を展開します。

市民ができる協力・参画のかたち

◆ キッズウィークへの参加

10月第3月曜日「丸亀子どもデー」に休暇を取得するなど、家庭で子どもと過ごす時間を意識的に作り、ワーク・ライフ・バランスを実現します。

◆ 産業教育への協力

地元企業PR事業などに協力し、地域の若者に地元企業の魅力や仕事のやりがいを伝えます。

◆ 地場産業の継承への参加

丸亀うちわ技術技法講座など伝統産業の技術を学び、後継者になるなど継承に協力します。



KPI(重要業績評価指標)

働く場や選択肢があり、働き続けたいと感じている市民の割合

現状(R8) R11
R8調査予定



仕事と生活のバランスが取れ、働きやすいと感じている市民の割合

R8調査予定



関連する個別計画

- 産業振興計画
- 男女共同参画プラン

基本方針 Ⅱ 活力みなぎるまち

基本施策5 地域産業の振興と創出



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 地域産業の活性化に向けた支援が進み、地元企業の経営拡大や事業承継、新規創業への挑戦がしやすい環境が整いつつあります。
- 小規模事業者の経営力向上や地域資源の活用支援が進むことで、地域に根ざした企業の基盤強化が着実に進んでいます。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 丸亀うちわなどの地場・伝統産業と、新しい技術やサービスを取り入れた産業が共存し、多様な地元企業が地域に根づきながら成長しています。
- 地域内で経済が循環し、企業の活力が高まることで、魅力ある仕事生まれ、若者が地元で働く選択肢が広がっています。

現状と課題

- 農林水産業では、生産基盤の弱体化に加え、耕作放棄地の増加などにより、地域の生産力を維持するための課題が顕在化しています。
- 丸亀産品や地域資源のブランド力・発信力が十分でなく、認知度の低さが販路拡大や市内生産額の伸びを妨げています。
- 創業に向けた支援は広がりつつあるものの、金融・人材・ネットワークなどの支援基盤がまだ十分とは言えず、新規事業所の創出につながる環境整備が課題となっています。

主要な取組

生産基盤の強化

総合戦略

- 農林水産業の生産性向上や経営改善を後押しするほか、耕作放棄地の発生防止や有害鳥獣対策など、農地・漁場の保全や土地改良事業の推進などを進めます。

地域産業の競争力強化

総合戦略

- 地域産品の開発支援や販路拡大、企業ニーズに合わせた経営力向上支援を行い、地元企業の稼ぐ力を高め、地域産業の成長を促します。

働く場の創出

総合戦略

- 県等とも連携しながら企業誘致や工場等の立地を促進します。また、経済団体・金融機関等と連携し、創業者への伴走支援や、市内企業の第二創業・新事業展開を後押しすることで、地域経済の活力向上につなげます。

地場・伝統産業の振興

総合戦略

- 世界の持続可能な観光地TOP100選出の強みを生かし、付加価値向上や国外販路の拡大を進め、持続的な収益基盤の確立を目指します。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 地元産品を選んで購入
直売所・地元店舗などで丸亀産の食材等を購入し、地域の生産者や企業を応援します。
- ◆ 地元企業やお店の応援・情報発信
地域のお店を積極的に利用し、口コミやSNSで魅力を発信することで、地元企業の認知度向上に協力します。
- ◆ 創業を後押しする機運づくりに参加する
クラウドファンディングなど新しい挑戦を応援し、地域で新たな産業が生まれる環境づくりに協力します。



KPI(重要業績評価指標)

お店や仕事、人の動きに元気があり、地域経済が活発だと感じている市民の割合

現状(R8)

R11

R8調査予定



新しい仕事や挑戦が生まれ、将来に期待が持てると感じている市民の割合

R8調査予定



関連する個別計画

- 産業振興計画
- 創業支援等事業計画

基本方針 Ⅱ 活力みなぎるまち

基本施策 6 観光交流・離島振興の推進



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 丸亀ならではの地域資源の磨き上げやイベント・プロモーション強化により交流人口が増え、地域での消費が広がっています。
- 世界の持続可能な観光地TOP100選出を契機に、環境や地域資源を生かした本市の価値が明確化され、質の高いインバウンドの誘客や旅行商品の造成につながっています。
- 島しょ部を含む地域とのつながりも深まり、移住や関係人口の拡大につながる動きが見え始めています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 観光や交流を通じて地域との関係が深まり、地域活動や移住へとつながる好循環が生まれています。
- 丸亀の魅力が広く認知され、「訪れたい・関わりたい・住みたい」と選ばれるまちとして、地域全体の活力が高まっています。

現状と課題

- 観光客や宿泊者は増加しているものの、来訪者満足度やリピーター率は十分に高まっておらず、旅行消費額の向上と合わせて、日帰り・宿泊双方でサービスの質を高めることが課題となっています。
- 島しょ部では、移住者の増加により一定の活気が見られる一方で、高齢化が進行しており、地域の暮らしを支える人材やしくみの確保が引き続き求められています。
- 大都市圏への若年層流出が続く中、観光や交流をきっかけとした関係人口の拡大を図り、移住・定住につながる取組を強化することが必要です。

主要な取組

地域資源を生かした交流拡大

総合戦略

- 丸亀城をはじめとする地域資源の魅力向上と情報発信を強化し、イベントやプロモーションを通じて交流人口・関係人口の拡大と地域の活力創出につなげます。

離島活性化

- 島の暮らしを維持できるような生活支援を充実させるとともに、日本遺産「せとうち備讃諸島石の島」や塩飽諸島の魅力を生かした取組を推進し、関係人口の創出や移住促進につなげます。

移住・定住の促進

総合戦略

- 移住希望者への相談支援や市内案内など伴走型の支援を充実させ、移住のハードルを下げる一方で、移住後も民間事業者や地域と連携したサポートにより、安心して暮らし続けられる環境を整えます。

都市間交流の推進

- 親善都市・姉妹都市など多様な地域との交流を深め、文化・教育・産業・観光など幅広い分野で人や情報が行き交う機会を創出し、相互の発展につながるネットワークを広げます。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 観光案内・ガイド活動
丸亀城や本島などでのボランティアガイドに参画し、地域の魅力発信に協力します。
- ◆ 市の魅力を広げるPRサポーター
県外の友人・家族に丸亀市の魅力やイベント情報を紹介し、来訪・Uターンのきっかけづくりに貢献します。
- ◆ イベントの運営・参画
丸亀お城まつりなど、地域の祭り・イベントのスタッフとして協力し、まちの賑わいづくりに参加します。
- ◆ 離島の活力づくりへの協力
本島・広島など島しょ地域の体験プログラムや魅力発信イベントに参加し、交流人口の拡大に寄与します。



KPI(重要業績評価指標)

地域の魅力が高まり、観光客や地域外の人との出会いや交流が増えていると感じている市民の割合	現状(R8) R8調査予定	R11
離島ならではの魅力が生かされ、活気が生まれてきていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 産業振興計画
- 観光戦略プラン

基本方針 Ⅲ 安心して暮らせるまち

基本施策 7 地域公共交通・生活安全の充実



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- こどもから高齢者まで誰もが安心して移動できるよう、公共交通の利便性向上に加え、次世代モビリティなど新たな移動手段の検討が進み、地域の移動の選択肢が広がりつつあります。
- 交通安全教育の充実や見守り・防犯体制の強化が進み、地域ぐるみで日常の安全を守る取組が広がっています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 公共交通が地域の生活動線と調和し、多様な移動手段が確保されることで、市民の外出機会と暮らしやすさが大きく高まっています。
- 交通事故や犯罪が抑制され、安全で安心な地域社会が定着し、住民同士が自然と支え合い・見守り合う環境が持続的に整っています。

現状と課題

- 少子高齢化や人口減少により公共交通の利用者は伸び悩み、採算性と利便性の両立が難しくなっています。さらに担い手不足も深刻化し、安定した運行の確保が課題となっています。
- 生活圏へのアクセスや乗り継ぎの利便性が十分とはいえず、高齢者や移動困難者に配慮した移動手段の確保が求められています。
- 市内の交通事故件数は減少傾向にあるものの、犯罪認知件数は増加しており、引き続き、交通安全・防犯意識の向上が課題です。

主要な取組

既存の地域公共交通のリデザイン

総合戦略

- 交通手段ごとの特性を踏まえながら、これまでの「網羅的なネットワーク」から、地域の需要に応じた「必要なネットワーク」へと再編し、将来の都市構造に適合した地域公共交通システムへとリデザイン（再設計）していきます。

移動手段の充実・確保

総合戦略

- 市民ニーズや社会環境の変化に対応し、新たな移動手段の検討を進めながら、地域の実情にマッチし、日常の移動に課題を抱える層にも使いやすい移動手段を確保していきます。

新たな交通システムの検討

総合戦略

- 市内で運行しているコミュニティバスの改善を進めつつ、市民・事業者・行政が連携し、将来的な自動運転技術の活用も視野に入れながら、ICT等を活用した公共交通サービスの充実を図ります。

身近な暮らしの安全対策

総合戦略

- 警察などと連携し、交通安全や防犯に関する広報活動や情報発信を行うことで市民の意識の高揚を図るとともに、地域や学校と協力しながら、日常生活における安全・安心を守る取組を推進します。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 公共交通の積極利用：
毎月20日の運賃無料デーを活用したコミュニティバス・離島航路の利用など、公共交通を使います。
- ◆ 交通ルールの遵守：
運転者も歩行者も、お互いが気持ちよく過ごせるようマナーを守り、安全に配慮して行動します。
- ◆ 地域の見守り活動への参加：
防犯パトロールや通学路見守り活動に参加し、地域で子どもや高齢者を支える安心の輪づくりに協力します。
- ◆ 移動支援サービスへの協力：
コミュニティの移動支援サービスの運転ボランティアに参加します。



KPI(重要業績評価指標)

通勤・通学や買い物、通院など、日常の移動に不便を感じることなく暮らせていると感じている市民の割合

現状(R8) R11
R8調査予定



日常生活の中で「安全だ」「守られている」と感じている市民の割合

R8調査予定



関連する個別計画

- 地域公共交通計画
- 交通安全計画

基本方針 Ⅲ 安心して暮らせるまち

基本施策8 都市インフラ・住環境の整備



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 身近な公園や道路、下水道等の都市施設の維持保全などが進み、生活の安全性や利便性が高まっています。
- 老朽危険空き家の除却や空き家の利活用が進められ、地域の生活環境が適切に保全されています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 災害に強く、誰もが安心して暮らせる都市インフラが整備され、道路や公園、下水道などの都市基盤が安定的に機能し続けるまちが実現しています。
- 空き家の利活用が進み、良質な住環境が維持され、居心地のよい暮らしが続くまちとなっています。

現状と課題

- 老朽化した道路・橋梁・下水道などの都市インフラが更新期を迎えており、安全性を確保するために計画的な維持管理と更新が求められています。
- 前回の実態調査から空き家が大幅に増加し、管理不全に伴う防災・防犯・景観上のリスクが高まっていることから、老朽危険空き家の除却や利活用を促す支援体制の強化が必要です。
- 公園の老朽化や利便性の不足、バリアフリー対応の遅れなどにより、誰もが安心して利用できる公共空間づくりが課題となっています。

主要な取組

道路整備の推進

- 計画的な道路整備と適正な維持管理を進めるとともに、歩道の整備や安全対策を含めた道路ネットワークの充実を図り、市民が安心して快適に利用できる道路空間の形成を目指します。

下水道施設・設備の安全性確保

- ・ 老朽化したポンプ場設備や管きよの更新を進めるとともに、生活排水処理施設の整備を図り、下水道施設の安全性と機能を確保します。
- ・ 香川県広域水道企業団において令和10年度に予定されている水道料金の統一を見据え、下水道料金の改定について検討を進めます。

公園の整備

- ・ こどもたちが元気に遊べ、市民の憩いや交流の場となるよう既存の公園のリニューアルなどを進め、魅力ある公共空間の充実を図ります。

空き家対策の推進

- ・ 相談体制の充実による発生予防と老朽危険空き家の除却に加え、利活用の促進を進めることで、安心して快適に暮らせる生活環境の形成を目指します。

良質な住環境の確保

- ・ 快適な住環境の確保に向け、適正な民間住宅開発や民有地の管理を促すとともに、マンションの老朽化や管理不全への対応など、社会情勢を踏まえた住まいの施策を進めます。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 身近な環境美化
港湾・河川・海岸などの清掃活動に参加します。
- ◆ 公園の美化・維持管理
緑化推進事業に取り組むボランティア団体に参画します。
- ◆ インフラ維持の安全確保
道路の損傷や街灯の不点灯などを見つけた際には市へ積極的に通報します。
- ◆ 良質な住環境の維持
空き家の適切な管理や地域での見守り活動を行います。



KPI(重要業績評価指標)

道路や公園などが使いやすく整い、日々の暮らしが快適だと感じている市民の割合	現状(R8) R8調査予定	R11
安心して暮らし続けられる住環境が整っていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 緑の基本計画
- 流域関連特定環境保全公共下水道事業計画
- 流域関連公共下水道事業計画
- 空家等対策計画
- 道路舗装単独修繕計画
- 公共下水道事業計画
- 市営住宅長寿命化計画
- 橋りょう長寿命化修繕計画

基本方針 Ⅲ 安心して暮らせるまち

基本施策 9 防災・危機管理体制の強化



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- ・ 豪雨災害や巨大地震に備え、避難情報が確実に伝わり市民が適切に避難行動をとれる体制が整うとともに、災害用物資や設備の整備、公共施設等の耐震化などが進みつつあります。
- ・ 地域では自助・共助の意識が高まり、顔の見える防災体制が機能しています。
- ・ 丸亀市・善通寺市・多度津町による消防広域化により、消防力の強化が進んでいます。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- ・ 南海トラフ地震や気候変動による災害リスクに対応できるよう、防災・減災の体制が総合的に整い、誰もが安心して暮らせる強固な防災基盤が確立しています。
- ・ 消防の広域連携が確立され、迅速で効率的な消防・救助活動が安定的に行われています。

現状と課題

- ・ 巨大地震への備えとして、確実に避難行動をとれる体制や避難所の生活環境の整備が急務であり、老朽住宅やブロック塀等への対策も依然として課題となっています。
- ・ 気候変動に伴う豪雨の頻発により、内水氾濫や河川氾濫のリスクが高まっており、過去の浸水被害を踏まえた排水施設等の計画的な整備が求められています。
- ・ 消防団員の高齢化や人員不足が進む中、消防力の強化に向けては、車両・資機材の整備・更新や人材配置などにおいて広域でのスケールメリットを活かし、持続可能な消防・救急体制を整えていく必要があります。

主要な取組

総合排水計画の推進

- ・ 水害の激甚化による浸水リスクに対応するため、丸亀市総合排水計画に基づき、河川や水路、排水ポンプ場などの総合的な治水・排水対策を進め、効率的な管理体制を整えます。

災害に強いまちづくり

総合戦略

- 民間住宅の耐震化やブロック塀の安全対策、緊急輸送道路沿道の建築物の耐震化に加え、公共施設の防災機能を強化し、災害に強い都市基盤の形成を図ります。

防災体制の充実

- 市の危機管理体制を継続的に強化するとともに、自主的な防災活動が活発に行われるよう、地域における自助・共助の防災意識の向上を図ります。

消防力の強化

- 消防・救急体制の基盤強化に向け、広域化を進めるとともに、消防団員をはじめとする地域の担い手の確保・養成や、装備・機材の充実、迅速な出動体制の強化に取り組みます。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 地域の防災力向上
自主防災訓練や防災講習などに参加します。

- ◆ 災害時の安全確保
水・食料の備蓄、家具の固定、避難ルートの確認、避難情報の把握など、家庭での備えを進めます。

- ◆ 消防団への参画
消防団への加入や活動への協力を通じて、地域の消防力の維持・向上に貢献します。

- ◆ 住宅の耐震化・安全対策の実施
住宅の耐震化やブロック塀の安全対策など、住まいの災害リスクを減らす取組を行います。



KPI(重要業績評価指標)

地震や風水害などの災害が起きても、備えがあり安心できるまちだと感じている市民の割合	現状(R8)	R11
	R8調査予定	
火災や事故、急病などの際に、迅速で頼れる対応が受けられると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 総合排水計画
- 地域防災計画
- 水防計画
- 業務継続計画
- 国民保護計画
- 国土強靱化地域計画
- 耐震改修促進計画

基本方針Ⅳ 健やかな笑顔ひろがるまち

基本施策10 地域共生社会の推進



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- ・ 相談窓口や地域のネットワークが整い、生活の困りごとを抱える人が孤立せず支援につながっています。
- ・ 複合化・複雑化した支援ニーズにも対応できる包括的な支援体制が整備され、地域では見守りや助け合いの活動が広がっています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- ・ 複合化・複雑化した支援ニーズにも切れ目なく対応できる包括的な支援体制が定着しています。
- ・ 誰もが支え合いながら安心して暮らせる地域共生社会が実現し、市民一人ひとりが地域の担い手として役割と生きがいをもって生活しています。

現状と課題

- ・ 高齢化が進む中、高齢世帯の多くが単身または夫婦のみとなっており、地域での見守りや支援が不足すると孤立や生活上の困難が見えにくくなるリスクがあります。
- ・ 生活困窮や孤独・孤立など多様な悩みを抱える人が増え、制度のはざまに置かれるケースも見られる一方、相談窓口の認知度は依然として低く、「どこに相談すればよいか分からない」という声が課題となっています。
- ・ 民生委員・児童委員など地域活動の担い手は高齢化・減少しており、介護・福祉分野でも人手不足が深刻化していることから、若年層や多様な人材の参画促進が求められています。

主要な取組

暮らしを支える福祉の充実

- 複合化・複雑化した支援ニーズに対応するため、相談機能の連携やアウトリーチ支援を強化し、切れ目のない包括的な支援体制の充実を図るとともに、地域で見守りや支え合いを担う人材を育成し、困りごとを抱え込まない環境づくりを進めます。

高齢者福祉の充実

- 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、介護予防や認知症支援、地域包括ケアを充実させるとともに、社会参加の機会を広げ、生きがいと安心を感じられる地域づくりを進めます。

障がい者福祉の充実

- 障がいの有無に関わらず、誰もが尊重され、自分らしく生活できるよう、相談支援・就労支援・地域生活支援を充実させます。また、バリアフリー環境の整備や交流の機会を広げ、安心して暮らせる地域づくりを進めます。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 日常の見守りや声かけ
ちょっとした助け合いを通じて、孤立を防ぎ、地域の支え合いを広げます。
- ◆ フードバンク・寄附などの支援
フードバンクへの食品提供や仕分け作業など、食の支援活動に参加します。
- ◆ ボランティアなどの支援
丸亀市ボランティアセンターの活動などに参加し、困りごとを抱える人を支えるとともに、自分のやりがいやいきがいにもつなげます。
- ◆ 地域福祉の担い手として活動する
民生委員・児童委員や福祉協力員として見守りや相談の役割を担い、地域の福祉を支えます。



KPI(重要業績評価指標)

	現状(R8)	R11
困ったときに助け合える人や仕組みが身近にあり、地域で支え合っていると感じている市民の割合	R8調査予定	
高齢者や障がいのある方が、必要な支えを受けながら安心して日常生活を送れていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 地域福祉計画・地域福祉活動計画(みんなのふくし丸亀プラン)
- 高齢者福祉計画・介護保険事業計画
- 障がい者基本計画、障がい福祉計画・障がい児福祉計画

基本方針 Ⅳ 健やかな笑顔ひろがるまち

基本施策 1 1 スポーツの振興と健康づくり



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 多様なスポーツに気軽に参加できる環境が整い、こどもから高齢者、障がいのある人まで誰もが生涯スポーツを通じて交流し、地域に活気が生まれています。
- 運動習慣の定着や食生活の改善など、市民の健康づくりが着実に進み、日常の中で無理なく健康に取り組める環境が整っています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 部活動の地域展開を含めスポーツを身近に楽しめる環境が整い、あらゆる世代が心身ともに健康で、いきいきと暮らせる活力あるまちが実現しています。
- 健康寿命も着実に延び、市民が生涯にわたり元気に生活できる社会が定着しています。

現状と課題

- 市民の運動習慣は十分ではなく、気軽に運動に参加できる環境の整備が求められます。また、スポーツ施設の老朽化やスポーツイベントへの参加者数の伸び悩み、スポーツ施設の活用も課題となっています。
- 食生活の乱れや運動不足によって健康への不安を抱える人が多い一方で、特定健診の受診率も伸び悩むなど、肥満や糖尿病など生活習慣病のリスクが高まっています。
- 日常的に健康へ気を配る意識が十分に広がっておらず、若い世代から継続的に健康づくりに取り組める環境と意識づけの強化が求められています。

主要な取組

スポーツの力を活かしたまちづくりの推進 総合戦略

- 香川丸亀国際ハーフマラソンなどのスポーツイベントやプロスポーツとの連携を通じて、地域の賑わいを創出するとともに、スポーツの力を地域の課題解決につなげるアクティブなまちづくりを進めます。

充実したスポーツ施設の活用促進

総合戦略

- ・ 老朽化した運動施設の改修を進めるとともに、丸亀市総合運動公園アーバンスポーツパークや丸亀市民球場など本市の特色である充実したスポーツ施設を活用したまちづくりを進めます。

健康づくりの推進

総合戦略

- ・ 「健幸の日」や「健幸10か条」の普及など、市民が日常生活の中で健康行動を意識しやすい環境づくりを進めます。また、食事・運動・休養のバランス改善を後押しし、生活習慣病の予防と、健康寿命の延伸を目指します。

地域保健・医療の充実

- ・ 感染症対策や救急医療など、地域の保健・医療機関との連携を強化し、地域医療体制の維持・確保に努めます。

市民ができる協力・参画のかたち

◆ 身近な運動習慣やスポーツイベントへの参加

日常の運動や運動教室、ハーフマラソンなどに参加し、体を動かす機会を増やします。

◆ 健康診断・がん検診の定期的な受診

健診を定期的に受け、自分の健康状態を把握します。

◆ 日常生活での健康意識の実践

食事・運動・休養など、日常生活の中で健康づくりを心がけます。

◆ スポーツ活動への協力やプロスポーツの応援

地域クラブやボランティア活動に参加したり、地元プロスポーツを応援して盛り上げます。



KPI(重要業績評価指標)

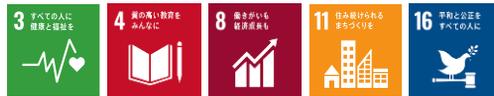
身近な場所でスポーツや運動を楽しめていると感じている市民の割合	現状(R8)	R11
	R8調査予定	
身近に相談できる保健や医療があり、病気やけがの不安を感じずに暮らせていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- スポーツ振興ビジョン
- 体育施設長寿命化計画
- 総合運動公園施設再配置計画
- 健康増進計画(健やかまるがめ21)
- 食育推進計画
- 自殺対策基本計画

基本方針Ⅳ 健やかな笑顔ひろがるまち

基本施策12 文化芸術・生涯学習の推進



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 丸亀市民会館(シアターマド)や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)など、市民が気軽に文化や学びに触れ、本物の芸術や良質な知に出会える環境が整い始めています。
- 文化芸術と生涯学習の取組が広がり、年代や立場を問わず参加しやすい文化活動や地域の学びが活性化するとともに、その成果を地域のために生かす動きも芽生えています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 誰もが文化や学びにアクセスできる環境が整い、文化と生涯学習が日常の暮らしに根づいています。
- 年齢・障がい・環境に関わらず、多彩な文化や学びが世代を超えて受け継がれ、その知識や経験を地域に確実に還元することで、豊かに暮らせる活気に満ちたまちが実現しています。

現状と課題

- 市民の文化・学習活動の参加率は、コロナ禍を経て回復傾向にはあるものの、生活スタイルの変化も影響し、きっかけや魅力的な機会の不足が参加の妨げとなっています。
- 市民の多様なニーズに対応するため、生涯学習講座の充実やICTを活用した学びの機会づくりなど、柔軟でアクセスしやすい学習環境の整備が求められています。
- 丸亀城、笠島まち並保存地区、快天山古墳などの文化財を将来にわたり適切に保存・活用し、次世代へ確実に継承することが求められています。

主要な取組

本物に触れる文化芸術の振興

総合戦略

- 丸亀市民会館(シアターマド)などでの公演などを通じて、本物の文化芸術に触れる機会を広げます。
- 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)において、市民の感性や文化的素養が高まるよう、鑑賞機会の充実に努めます。

市民文化芸術活動の推進

総合戦略

- 文化協会などの文化活動を支えながら、市民の主体的な文化芸術活動の充実を図ります。
- アウトリーチ事業等を通じて、誰もが文化芸術活動に参加できる環境を整えます。

生涯学習の推進

- 地域全体で多様な学びの機会を創出し、現代的な課題にも対応できる柔軟な学習環境を整えることで、誰もが生涯にわたり学び続けられる体制を強化します。
- 図書館サービスの充実に努めるとともに、電子図書館の普及や読書活動の推進により、世代を問わず質の高い学びに触れられる環境を整えます。

歴史・文化の継承

総合戦略

- 先人が築いてきた民俗芸能などの伝統文化や文化財を適切に保存・活用しながら次世代へ確実に継承するとともに、その担い手の育成や後継者不足の解消を支援します。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ 文化・芸術活動への参加・支援
地域の文化祭や公演、ワークショップに参加したり、運営ボランティアとして関わります。
- ◆ 生涯学習活動への参加と学びの還元
学習活動に積極的に参加し、得た知識や経験を地域活動や次世代への指導に生かすことで、学びの循環を広げます。
- ◆ 図書館の利用と読書活動の推進
読み聞かせ研修会や講演会に参加し、家庭では家族と本に親しみます。
- ◆ 文化財の保全・継承への参加
丸亀城等の史跡の清掃、文化財イベントなど、文化財を保存・継承する取組に参加します。



KPI(重要業績評価指標)

文化芸術に触れる機会や、地域の文化財の魅力を身近に感じている市民の割合	現状(R8)	R11
	R8調査予定	
年齢を問わず、自分の興味や関心に応じて学び続けられる環境が身近にあると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 文化芸術基本計画
- 生涯学習推進計画
- 子ども読書活動推進計画
- 史跡丸亀城跡保存活用計画
- 史跡快天山古墳保存活用計画
- 塩飽本島町笠島伝統的建造物群保存地区保存活用計画

基本方針Ⅳ 健やかな笑顔ひろがるまち

基本施策13 人権尊重・多文化共生社会の実現



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 学校や地域で人権同和教育や男女共同参画、多文化共生の取組が進み、互いの違いから生まれる多様性を尊重する意識が広がっています。
- パートナーシップ宣誓制度の普及やインターネット上の誹謗中傷防止の取組が進み、誰もが安心して自分らしく暮らせる環境が整い始めています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 外国人住民が日本語学習や就労支援を通じて地域で活躍し、多文化共生が当たり前になった社会が形成されています。
- 国籍、障がい、性別、LGBTQ、出自などに関わらず、誰もが尊重され、安心して暮らせるまちが実現しています。

現状と課題

- 「人権が十分に守られていない」と感じる層が依然として一定数存在しています。自分に身近な人権課題ほど関心が高い傾向にありますが、関心度の高低だけでなく、課題に潜む関連性や共通点から他者の人権尊重に向けた理解促進が課題となっています。
- パートナーシップ宣誓制度やインターネット上の誹謗中傷防止条例など、人権を尊重するための制度が整備されつつありますが、市民への周知や理解促進が課題となっています。
- 外国人住民は約10年で約1.8倍に増加し、日本語指導が必要な児童が増えるなど、言語・教育支援の需要が高まっている一方、生活上の不安を抱える人も少なくないです。

主要な取組

人権尊重に関する条例の推進

総合戦略

- ・「人権を尊重し多様性を認め合うまちを実現する条例(多様性条例)」の理念に基づき、学校・地域・職場を含む身近な場での普及啓発を進め、互いの違いを認め合う風土づくりを進めます。
- ・インターネット上の誹謗中傷や差別の未然防止に取り組み、誰もが安心して暮らせる人権尊重の環境を整えます。

男女共同参画社会の実現

総合戦略

- ・誰もが性別に関わらず、自分らしさを大切にしながら個性と能力を発揮できる社会の実現に向けて、啓発や相談支援、地域や職場での参画促進などの取組を進めます。

多文化共生の推進

総合戦略

- ・国際交流協会等と連携した生活支援情報の多言語提供、日本語学習支援、国際交流事業を通じて、外国人住民が安心して暮らせる多文化共生社会の実現を目指します。

市民ができる協力・参画のかたち

◆ 外国人住民との交流

国際交流のイベントに参加して、外国人住民と文化や言葉を通じて自然に関わり合います。

◆ 差別や偏見を見過ごさない行動を取る

国籍・障がい・性別・LGBTQ・出自などを理由とした偏見や差別、いじめに気づいたら、一人ひとりが声をかけたり相談につなぐなど、人権を守る姿勢を示します。

◆ 男女共同参画への理解を深める

家事・育児・地域活動などを性別に関わらずに分担し、多様な生き方や働き方を尊重する風土づくりに協力します。



KPI(重要業績評価指標)

	現状(R8)	R11
年齢や性別、互いの違いに関わらず、誰もが自分らしく暮らせていると感じている市民の割合	R8調査予定	
国籍や文化の違いを受け入れ、互いを尊重しながら暮らせていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 人権教育・啓発に関する基本指針
- 男女共同参画プラン

基本方針 Ⅴ ともにつくるまち

基本施策 14 市民参画と協働による地域づくり



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 地域のつながりやコミュニティ活動が活性化し、地域活動に積極的に参加する市民が増えています。
- 学校や地域での市民参画意識の向上が進み、若い世代を含む多様な市民が地域課題に主体的に関わり始め、市民と行政の対話と協働が身近なものになっています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 自治基本条例の理念が根つき、市民・団体・企業・行政が対等な立場で地域づくりに参画する協働の文化が定着しています。
- 市民参画と協働が進展し、多様な主体が連携して地域課題を解決できる仕組みが確立され、市民一人ひとりが「地域の一員として参画することの意義」を実感できる社会が実現しています。

現状と課題

- 地域活動への参加が広がりにくい状況が続いており、市民アンケートでも参加意欲が低調であるなど、特に若年層の参画が十分に進んでいないことが課題となっています。
- コミュニティや自治会など地域活動の担い手は高齢化が進み、新たな参加者が確保しにくい状況が続いており、若年層の参画、有償ボランティアなど担い手確保の新たな仕組みづくりが求められています。
- 市民参画を進めるためには、自治基本条例の認知向上や市民と行政の協働の機会づくりを進め、だれもが参加しやすい仕組みを整えることが課題となっています。

主要な取組

自治基本条例の推進

- ・ 市政への理解と参加を広げるため、自治基本条例の理念を分かりやすく周知し、多様な市民の声を市政に活かす仕組みを充実させます。

多様な連携の推進

総合戦略

- ・ 民間と行政がそれぞれの立場から地域課題の解決に取り組めるよう、多様な主体と連携した取組を進めます。

地域づくりへの支援

総合戦略

- ・ 地域コミュニティによる自発的な地域活動を後押しするとともに、マルタスを活用した市民活動団体の取組を支援するなど、全世代に向けた地域づくりへの参画の機運を高めます。

主権者教育の推進

- ・ 選挙をはじめとする政治参加の意義を若い世代にも理解してもらえるよう、学校等での主権者教育を充実させ、若年層の社会参画意識と投票率の向上を図ります。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ まちの課題に触れる場へ参加
地域のワークショップや市民意見交換会、まちづくり会議に参加し、自分の意見やアイデアをまちづくりに生かします。
- ◆ 市民活動団体の活動を応援・参加
マルタスを拠点に活動する市民活動団体やNPOの活動に参加したり、ボランティアとして地域の課題解決に関わります。
- ◆ 地域コミュニティの活動に協力
地域の清掃活動や行事の手伝いなど、地域課題の解決、ひいてはまち全体の活力につながる小さな協力を積み重ね、地域のつながりを深めます。
- ◆ 主権者として選挙に参加
選挙に参加するなど、政治やまちづくりに主体的に関心を持つことで、社会の一員として意思を表明します。



KPI(重要業績評価指標)

	現状(R8)	R11
自分の意見や参加がまちづくりに生かされ、市と市民が一緒にまちをつくっていると感じている市民の割合	R8調査予定	
市民や地域団体、企業などが連携し、地域づくりの活動が身近で活発に行われていると感じている市民の割合	R8調査予定	

関連する個別計画

- 協働推進計画

基本方針 Ⅴ ともにつくるまち

基本施策 15 環境に配慮したまちづくり



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 市民の環境意識が高まり、日常の中で省エネやリサイクル、ごみの分別・減量などの行動が広がっています。
- 公共施設や事業所でも、脱炭素化や環境配慮型の取組が進み、持続可能なまちづくりの基盤が整いつつあります。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 再生可能エネルギーの導入やごみの減量・再資源化が進み、脱炭素社会と循環型社会が地域全体で実現しています。
- 緑豊かな自然環境と生物多様性が守られ、未来にわたり安心して暮らせる環境が整った、持続可能なまちが形成されています。

現状と課題

- 市内の一般廃棄物排出量については、近年、大きな減少傾向が見られず、ごみの発生抑制と資源化のさらなる促進が課題となっています。
- CO₂排出量は全体として減少傾向にあるものの、家庭や事業所での再エネ導入や省エネ行動の広がりが十分とは言えません。
- 瀬戸内海や里山、ため池など豊かな自然資源が残る一方で、保全活動の担い手不足が進むなど、生物多様性を維持しながら自然環境を次世代に引き継ぐことが課題となっています。

主要な取組

ゼロカーボンシティの推進

- 2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを宣言したゼロカーボンシティとして、市民や事業所と連携し、温室効果ガスの削減に取り組みます。

豊かな自然環境の保全

- 里山や水辺などの身近な自然への理解と保全活動を広げ、多様な自然環境の保全と生活環境との調和に努めます。

ごみ減量化と再資源化の推進

- 3R+Renewable(リデュース[発生抑制]、リユース[再使用]、リサイクル[再生利用]、リニューワブル[再生可能なものに切り替える])の推進に向けて、環境学習や啓発、ごみの分別回収の強化を進めるとともに、家庭・事業所でのフードロス削減や民間との協働による再資源化を促進します。

市民ができる協力・参画のかたち

- ◆ ゼロカーボン推進活動への参加**
脱炭素をテーマにしたワークショップや地域の取組(グリーンカーテン、節電チャレンジ等)に参加し、地域全体のゼロカーボン意識を高めます。
- ◆ ごみの分別徹底・3R+Renewableの実践**
マイバッグ・マイボトルの使用、食品ロスを減らす買い方など、日常の小さなエコ行動を続けます。
- ◆ 地域清掃や美化活動への参加**
公園・海岸・里山の清掃などに参加し、地域の自然環境を守る担い手となります。
- ◆ 自然観察会・環境イベントへの参加**
親子で参加し、自然に触れながら環境について学び、次世代への意識づけにつなげます。
- ◆ 省エネ・再エネの家庭での実践**
節電・節水や家庭での太陽光発電の導入など、家庭からできる脱炭素行動に取り組みます。



KPI(重要業績評価指標)

身近な自然や景観が大切に守られ、きれいで気持ちよく暮らせていると感じている市民の割合

現状(R8) R11
R8調査予定



省エネやごみ減量など、環境にやさしい行動が暮らしの中に根づいてきていると感じている市民の割合

R8調査予定



関連する個別計画

- 環境基本計画
- 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)
- 一般廃棄物処理基本計画

基本方針 Ⅴ ともにつくるまち

基本施策 16 広報戦略の強化



目指す未来の姿

短期（計画期間内に目指す姿）

- 市民が必要な情報を必要なときに確実に受け取れる仕組みが整い、行政情報の分かりやすさや届き方への満足度が高まっています。
- 紙媒体とデジタル媒体を柔軟に使用し、年齢や生活スタイルに応じた情報発信が広がり、市民に寄り添う広報体制が形成されています。

長期（その先を見据えて目指す姿）

- 行政と市民、地域外の人々をつなぐ効果的な広報体制が確立され、丸亀の魅力や価値が市内外に一貫性をもって発信されています。
- 市民も協力した情報発信により、まちのイメージが高まり、共感と信頼に基づいた持続的なシティブランドが形成されています。

現状と課題

- 広報まるがめの紙媒体は引き続き高い閲読率がある一方、SNS や LINE などデジタル媒体の活用は発展途上で、情報が届きにくい層が依然として存在しています。
- 世代によって情報の受け取り方に差があり、すべての市民に確実に情報を届けるためには、複数媒体の効果的な組み合わせとデジタルデバイス対策が必要です。
- 現在の広報活動や市民意見聴取は一方向が中心であり、市民参加を促すための双方向性を高める仕組みづくりが課題となっています。

主要な取組

ニーズに応える情報発信

総合戦略

- 広報紙の見やすさ向上と、ホームページ・SNSの使いやすさ改善により、必要な情報に確実にアクセスできる環境を整え、誰にでも分かりやすい情報発信を行います。

シティプロモーションの強化

総合戦略

- シティプロモーションサイトなどを効果的に活用し、魅力発信を強化するとともに、移住・観光と連動した戦略的PRで地域イメージの向上を図ります。

地域情報化の推進

- 情報格差を生まないよう、デジタルデバйд対策を進めながら、誰もが必要な情報にアクセスできる市民に寄り添った「やさしいデジタル化」を推進し、地域全体の情報活用力を高めます。

市民ができる協力・参画のかたち

◆ 情報発信への協力

市公式SNSをフォローし、投稿の「いいね」やシェア、口コミで市の情報を広く届けます。

◆ 市民参加型取組への参加

各種イベント、講座などに参加し、市政情報の発信に関わります。

◆ 地域の情報を市へ届ける

地域での出来事や魅力を市へ情報提供し、広報の素材づくりに協力します。



KPI(重要業績評価指標)

市内外に向けて、まちの魅力や情報がうまく伝わっていると
感じている市民の割合

現状(R8)
R8調査予定

R11



デジタルサービスが使いやすく整い、年齢や環境に関わらず
必要な情報やサービスを利用できていると感じている市民の
割合

R8調査予定



関連する個別計画

○DX推進計画

誇り愛されるまち

「誇り愛されるまち」は、 5つの基本方針が目指す目標

すべての取組を通じて、丸亀固有の魅力を磨き、シビックプライドを育み、その価値を市内外へ伝え、未来へつなげていくことが重要です。

また、人口減少や地域間競争が進む今、市民の発信や行動がまちの印象を左右する時代となりました。だからこそ、市民だけでなく、市外の人にも丸亀の魅力を伝えてもらい「丸亀が好き」と思ってもらえる相思相愛の関係性を築くことが求められます。

I 心豊かな子どもが育つまち

II 活力みなぎるまち

III 安心して暮らせるまち

IV 健やかな笑顔ひろがるまち

V ともにつくるまち

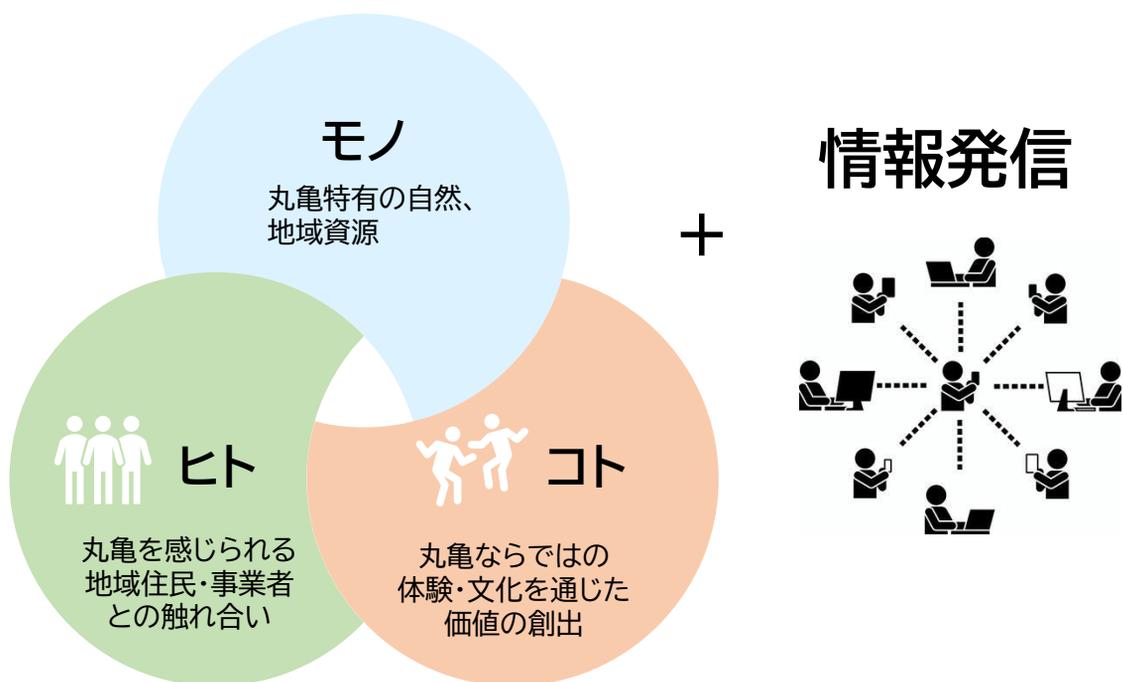
誇り愛されるまち



丸亀で暮らすことが誇らしく、訪れることがうれしくなる。
市民と市外のファンが互いに惹かれ合う「相思相愛のまち」。
市民は自分のまちが好きになり、その魅力を語りたくなる。
市外の人も「また来たい」「ここが好き」と感じて、その魅力を語りたくなる。
こうした温かなつながりを広げていくことで、丸亀の価値を高め、
未来の世代へと受け継いでいく。そんな姿を目指していきます。

丸亀市シティブランディング

地域資源の融合により、魅力に磨きをかけ、多くの人々の目、耳、心に届けることで、丸亀という「まち」の価値を高め、ひいては、自分自身が関わって地域を良くしていこうとするシビックプライドの醸成にもつなげます。

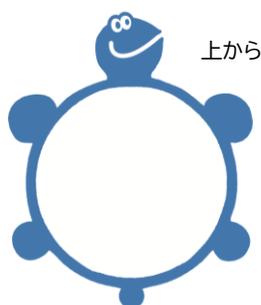


市民の皆さんに協力いただきたいこと

- ◆ コミュニケーションフレームを活用して、丸亀の魅力や良いところを発信しましょう (P89参照)

コミュニケーションフレームについて

丸亀の魅力や良いところ、プラスなこと、そして丸亀が目指す未来を
ファイナダー越しに見える形で切り取り、届けていく。
そのための仕組みが、このコミュニケーションフレームです。





第4章 未来を支える仕組み



1 行政改革の位置づけ

- 行政改革とは、厳しい財政状況の中でも、安全かつ良質な公共サービスを確実、効果的に実施していくため、社会情勢などに応じて不断の見直しを行うものです。
- 本市においても、平成17年度以降、五次にわたり、行政改革に関する計画を策定し、積極的に取り組んできました。
第一次(2005～2009年度)財政再建
第二次(2010～2014年度)量的改革に加えて質的改革も推進
第三次(2015～2017年度)市民力の発揮・地域力の活用・行政力の強化
第四次(2018～2021年度)業務改革・市役所改革・市民サービスの向上
第五次(2022～2025年度)DXや協働による市民サービスの向上
- 今回、新しい総合計画の策定にあたり、行政改革に関する計画を統合することとし、総合計画の推進を下支えする取組としての位置づけを明確化しました。
- 今後、総合計画に基づく取組を推し進め、目指す将来像を実現するため、行政改革を「行政運営」、「財政運営」、「広域連携」の3つの分野に分けて、それぞれ必要な変革の基本的な方針を定めます。



行政運営の基本的な方針

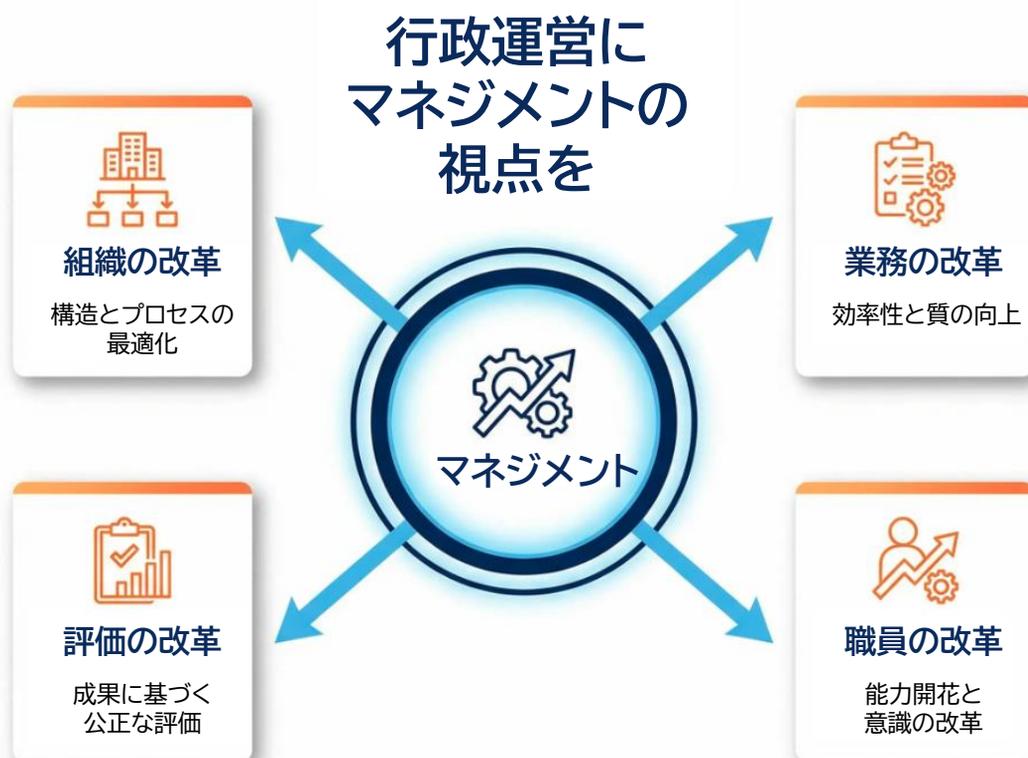
社会変化に適応する行政マネジメントの確立

近年、地方行政を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。

変化のスピードが速い時代においても、地方自治体には、常に変化に応じた対応が求められており、これまで以上に迅速で適切な意思決定、的確なサービスの提供など、前例に捉われない柔軟性と弾力性に富んだ行政運営を志向しなければなりません。

また、市民ニーズが多様化・複雑化しながら増大し、行政への期待が高まる一方、人口減少により、税収といった財源やまちづくりの担い手となる人材など地域資源のひっ迫はますます進行するものと見込まれ、持続可能性の視点からも、行政運営を見直していく必要があります。

今後は、行政運営の基本方針を「社会変化に適応する行政マネジメントの確立」として、「組織」「業務」「評価」「職員」という4つの視点から、必要な変革を行っていきます。



組織



- 地域課題、市民ニーズに迅速かつ的確に対応できる機動的な組織体制を整備します。
- 定員適正化を図るとともに、より良い行政サービスの提供に必要な人材を確保します。
- すべての職員が、やりがいと充実感を持って、イキイキと働ける職場をつくります。

業務



- 自治体DXの推進により、行政サービスの高度化と効率化、市民の利便性向上を図ります。
- 民間の多様な主体と連携し、民と官がそれぞれの強みを生かしながら、地域課題の解決に取り組みます。
- アウトソーシング(業務の外部委託)のほか、意見聴取や資金調達など、市民サービスの向上に資する民間活力の活用に取り組みます。
- 手続きの簡素化や親切丁寧な接遇など市民と接する窓口の対応を充実し、市民満足度を高めます。

評価



- 行政評価を柔軟に活用して、総合計画の進行管理だけでなく事業等の見直しや再編につなげます。
- 人事評価制度を適正に運用し、職員一人ひとりの能力を十分に引き出します。

職員



- 職員が積極的に自己研さんや業務改善にチャレンジできる環境を整えます。
- 「人材育成基本方針」に基づき、目指すべき職員像を実現するための人材育成に努めます。

財政運営の基本的な方針

持続可能な財政基盤の再構築

総合計画の着実な推進だけではなく、持続可能なまちづくりを進めていくためには、健全財政の再構築は必要不可欠です。

今後、本市においても厳しい財政状況が見込まれる中、市民サービスの根幹となる歳入の確保に努めるとともに、歳入に見合う歳出構造の最適化を図ります。

また、新たな行政課題への対応、将来を見据えた投資といった多様な財政需要に応えるため、バランスの取れた予算の編成と執行を継続します。

あわせて、財政状況の公表や予算説明など、分かりやすい情報提供を行っていきます。

歳入の確保

- 税収入等の自主財源の確保
- 国交付金等の獲得
- ふるさと納税の推進

歳出の最適化

- 不断の事務事業等の見直し
- 計画的な事業等の進行

ボートレース事業収益金の活用

BOAT RACEまるがめは、地域に密着したボートレース場として、その事業活動を通じて得た収益を市財政に安定的に繰出し、公共の福祉に寄与しています。

令和5年5月には、Gruunまるがめ・Moooviまるがめをオープンし、売上のみならず地域社会への新たな価値を創造しています。

広域連携の基本的な方針

多様な連携により地域の未来をつなぐ

今後、加速度的に人口減少が進むと見込まれる中、広域連携の重要性はますます高まるものと見込まれます。

本市においては、これまで主に中讃地域の枠組で広域的な取組を進めてきました。引き続き、スケールメリットの発揮による効率化、結びつきやネットワークの強化、生活機能の維持といったメリットを生かした持続可能な地域づくりのため、さらなる連携の推進に取り組んでいかなければなりません。

瀬戸内中讃定住自立圏

- ・ 定住自立圏構想に基づく多様な連携の推進(スポーツを通じた交流、関係人口の創出など)
- ・ 時代の変化に応じた新たな取組の検討

中讃広域行政事務組合

- ・ 連携強化による市民サービスの向上(介護認定審査等の共同実施、ごみ処理施設の一元化など)
- ・ 枠組を生かした広域化の実現(消防広域化など)

中讃保健医療圏

- ・ 二次医療圏として、救急医療や一般的な入院医療の包括的な提供(病院群輪番制の維持、救急医療体制の確保など)
- ・ デジタルを活用した医療体制のあり方の検討

さぬき瀬戸大橋広域観光協議会

- ・ 圏域内観光地への観光誘客や滞在型観光の推進(観光キャラバン隊の実施、中讃エリア観光ガイドの発行など)
- ・ 広域連携による観光価値の創出に向けた検討

さらなる広域連携の展開

- ・ 効果的な分野での取組の実施
- ・ 新たな枠組の検討

2 地方創生SDGsの推進

地方創生SDGsとは、地方創生の推進にSDGsの理念を取り入れることにより、政策の全体最適化、地域課題解決の加速化を図り、持続可能なまちづくりや地域活性化につなげていこうとする取組です。

SDGsの活用により、行政、民間事業者、市民等の異なるステークホルダーが地方創生に向けた共通言語を持つこととなり、政策目標の理解や合理的な連携を促進し、地方創生が一層、進展することが期待されます。

本市においても、総合計画に掲げる取組とSDGsをつなげることにより、市民等と一体となって、地域課題の解決や目標の達成にチャレンジしていきます。

※SDGs(エスディーゼーズ)…Sustainable Development Goalsの略で、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の持続可能な開発目標のことで

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさも守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | |





第5章
みんなで動かす
まちづくり



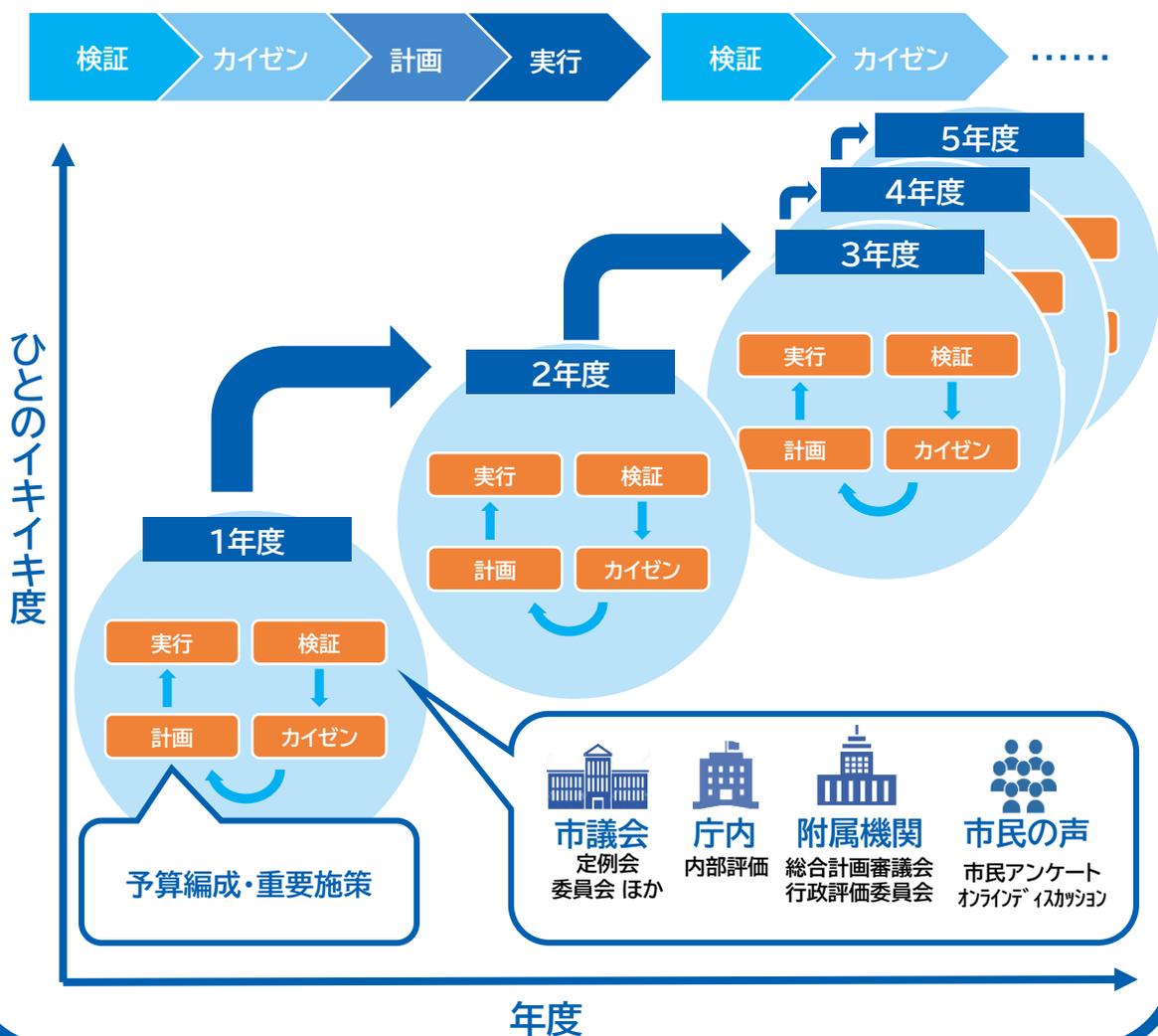
1 計画の進行管理

社会情勢や市民ニーズの変化に対応するため、時代に合わせて柔軟に見直し・更新していく「成長する計画」として運用します。

丸亀市に関わる皆様のご意見や取組の進み具合、その評価結果を踏まえて次年度の予算に反映し、特に力を入れる取組を「重要施策」として分かりやすく整理・公表します。こうしたサイクルにより、市民と共有しながら「まるっ都！まるがめ」を進めていきます。

「ひとをイキイキさせるまち」に向けたプロセス

検証→カイゼン→計画→実行のプロセスを年度単位で実施することで、ひとをイキイキさせるまちを着実に実現していきます。



※カイゼン…現状に満足せず、自ら問題に気づき、改善し続けることで、より良い状態へ変化し続けること。

2

みんなで育てる総合計画

市民の皆さんに総合計画をより身近に感じていただくとともに、一緒にまちづくりを進めていくために、コミュニケーションフレームを活用し、皆さんの日常に溶け込ませていきます。市民の皆さんと共に行動しながら、計画そのものを育てていく——そんな“みんなでつくる総合計画”を目指しています。

使い方

丸亀の良いこと、そして丸亀にとってプラスになることにおいて自由に活用できる前提としています。

▼ 詳しくはこちら



丸亀の目指す未来

具体的展開イメージ例

※取組が決まったものではありません。今後展開していくうえでの参考例として記載しております。



丸亀市総合計画の発信

丸亀市の目指す未来像

丸亀市を発信するアイコンとして



丸亀市を発信するツール

観光資源のPR



様々な分野での活用



丸亀市
MARUGAME CITY